

春夏 spring - summer
2020

vol.
26

春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53

横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

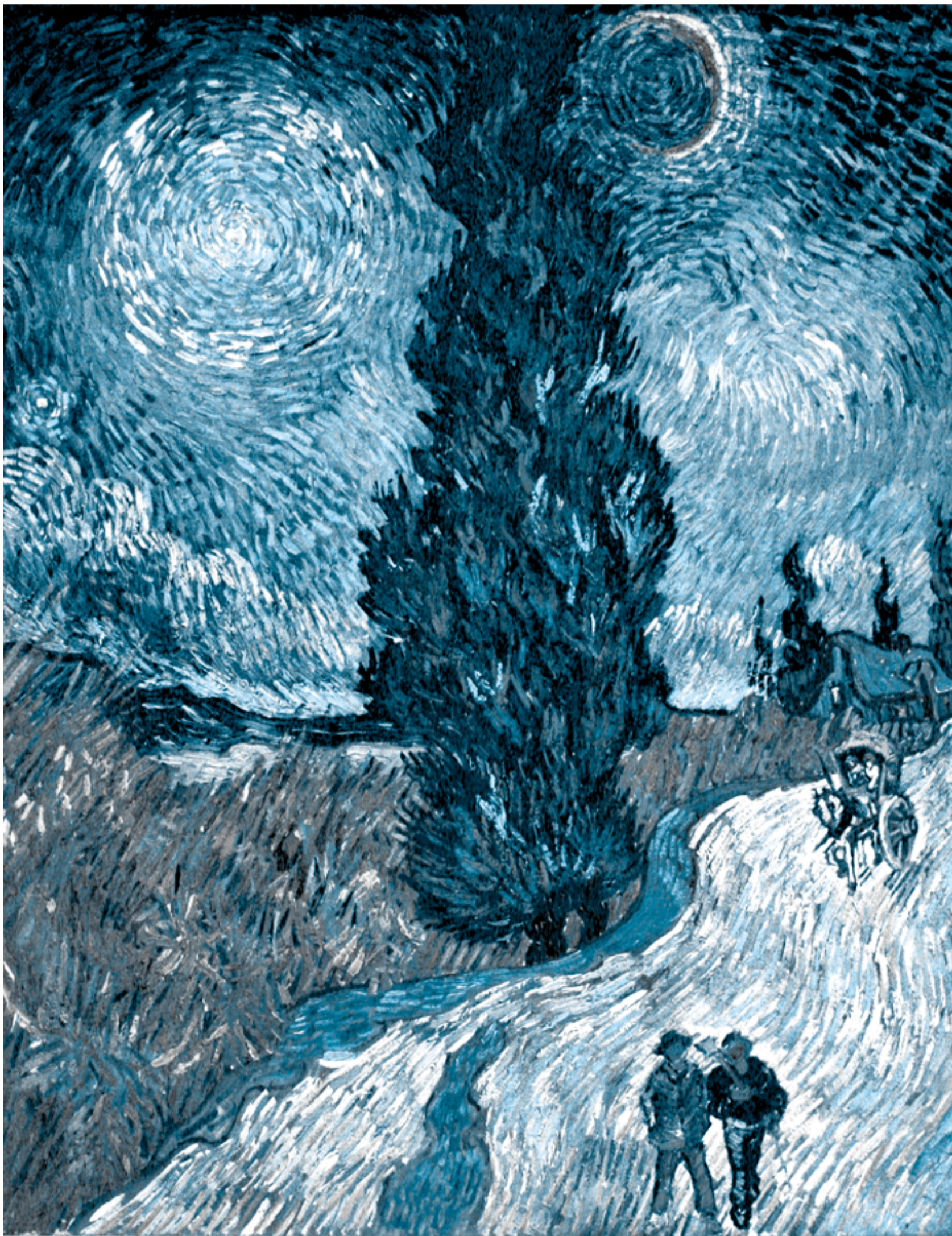
FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

図書目録 …… 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 5 / 文学 6 / 写真・音楽・芸術 7 / 観光・環境・自然 7 / 横浜市立大学新叢書 8 / 東洋英和女学院大学社会科学叢書 8
立教大学人文叢書 8 / 総記・辞典・事典 8 / 言語 8 / 教育 9 / 社会・歴史 10 / 政治・経済 10 / 人類学 11 / シリーズ来たるべき人類学 12
連載 …… 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8
コ・プレゼンスの時代へ 吉原直樹 9 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10
コラム …… 自著を語る 5 / 書評 11 / 春風接人 12

その
学ぶ者よ、何をか学ぶ、何の為にして学ぶ、
其目的を達せば則ち如何



絵

ことば

『新井奥遼著作集』六巻一六八頁

『おうすいポケット 新井奥遼語録抄』二二二頁より

ゴッホ「糸杉と星の見える道」(一八九〇年)

森田正馬にきく

森田療法の誕生



『森田療法の誕生』三恵社 2016年

二〇二〇年三月二十九日、横浜市教育会館にて、元・講談社インターナショナル社長で、『森田療法の誕生―森田正馬の生涯と業績』の著者でもある畑野文夫氏をお招きし、春風社代表の三浦衛と対談しました。その模様をお伝えします。

森田正馬にきく

森田正馬と鈴木知準

三浦 森田正馬は一八七四年に高知県で生まれ一九三八年に亡くなった精神科・神経科医で、神経質に対する精神療法である「森田療法」の創始者です。「神経衰弱」という病名はない。それは「神経質」という状態だ」というのが森田の独特な捉え方です。

院しました。知準先生の名で慕われていた方です。この鈴木先生も中学生のときに森田のところに入院しました。

ではないか」というような恐怖に襲われるタイプ。強迫神経症は普通の神経症にひとひねり加わっている、やや複雑なタイプです。

る。ただ思うだけであれば別に悩むにはならないのですが、「こうであってはいけない、何とかしなければならぬ」という気持ちが強迫的に出てきて、悩んでいる部分に注意がいく。そこに注意が向かうと不快感が高まり、それが溜まれば溜まるほどさらにそこに注意がいく、という悪循環の繰り返しでした。これを森田は「精神交互作用」と呼んでいました。

同じ強迫神経症であっても症状は千差万別、どこに注意がいつてそうなるかは人によってまちまちです。それらをひとくくりに「神経質」として名付け、その治療法を開発した。これは大変なことだと思います。

かの世界で、心底困り果てました。それでもどうにか大学に合格でき、最初は授業に出ていたのですが、せっかくなので予習していても、先生に当てられると緊張してしまい頭が真っ白になり、人前でも話せない。「これではとても大学生活は送れない」と悩みました。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

今日お越しいただいている畑野さんは、その森田正馬の三五年にわたる日記を丹念に読み、評伝『森田療法の誕生』をまとめられました。一九四〇年、東京生まれ。早稲田大学卒業後は講談社に入社され、美術局長、取締役総合編集局長、常務取締役、講談社インターナショナル社長などを務められました。ご自身の森田療法体験を含め、自己紹介をお願いします。

森田療法を受けた「卒業生」を集めた六〇人ほどの会です。鈴木先生も神経質に悩み入院し、その後、森田の勧めで医者になりました。東京大学医学部に入り、内村祐之という内村鑑三の息子のもとで精神医学を学んでいます。

「家に帰るとき、近所の人と出会ったら何か挨拶しなければいけない」と思うと苦痛になり、人と目が合うのを避けて逃げるように帰っていました。

同じ強迫神経症であっても症状は千差万別、どこに注意がいつてそうなるかは人によってまちまちです。それらをひとくくりに「神経質」として名付け、その治療法を開発した。これは大変なことだと思います。

あるとき、鎌倉の円覚寺の朝比奈宗源という老師が、学園祭に講演に来るといので、聴きに行きました。内容よりも「大勢の前で話をしている態度がすばらしい」と思い、その数カ月後に円覚寺で大学の座禅会接心があったというのを聞いて参加しました。一日一〇時間も座り続けるとても厳しい修行ですが、七日間泊まり込んでやりました。そうしたらすつかり治ってしまいました。まるで雲の上でも歩いているような感覚でした。「これですつかり治った」と思いました。

その世界で、心底困り果てました。それでもどうにか大学に合格でき、最初は授業に出ていたのですが、せっかくなので予習していても、先生に当てられると緊張してしまい頭が真っ白になり、人前でも話せない。「これではとても大学生活は送れない」と悩みました。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

畑野 森田療法では「体験」が重要な要素になっています。私がこの本を書いたのも、森田療法を実際に体験して、「日本生まれの世界的な精神療法をもう少しわかりやすく世に伝えたい」と思ったからです。森田療法そのものからして、森田自身が一五歳で心臓神経症になり、それから一五年間さまざまな症状で苦しんだという体験がなければ生まれなかつたでしょう。

畑野 私の神経症は、森田療法の世界では「神経質」と呼びます。人の性格を表す「神経質」と同じ言葉なので間違いやすいのですが、森田は『「神経質」という言葉が最も正しい、近い症候分類である』と主張し、神経質の範囲に、普通神経症、発作性神経症、強迫神経症の三つを挙げています。普通神経症は、例えば「ちよつと胃腸の具合が悪い。胃が悪いんじゃないか」と気にして悩む胃腸神経症のようなタイプ。発作性神経症の代表的なのは「心臓発作を起しそう。そのために死んでしまうの

同じ強迫神経症であっても症状は千差万別、どこに注意がいつてそうなるかは人によってまちまちです。それらをひとくくりに「神経質」として名付け、その治療法を開発した。これは大変なことだと思います。

あるとき、鎌倉の円覚寺の朝比奈宗源という老師が、学園祭に講演に来るといので、聴きに行きました。内容よりも「大勢の前で話をしている態度がすばらしい」と思い、その数カ月後に円覚寺で大学の座禅会接心があったというのを聞いて参加しました。一日一〇時間も座り続けるとても厳しい修行ですが、七日間泊まり込んでやりました。そうしたらすつかり治ってしまいました。まるで雲の上でも歩いているような感覚でした。「これですつかり治った」と思いました。

その世界で、心底困り果てました。それでもどうにか大学に合格でき、最初は授業に出ていたのですが、せっかくなので予習していても、先生に当てられると緊張してしまい頭が真っ白になり、人前でも話せない。「これではとても大学生活は送れない」と悩みました。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

体験から

畑野 森田療法では「体験」が重要な要素になっています。私がこの本を書いたのも、森田療法を実際に体験して、「日本生まれの世界的な精神療法をもう少しわかりやすく世に伝えたい」と思ったからです。森田療法そのものからして、森田自身が一五歳で心臓神経症になり、それから一五年間さまざまな症状で苦しんだという体験がなければ生まれなかつたでしょう。

畑野 私の神経症は、森田療法の世界では「神経質」と呼びます。人の性格を表す「神経質」と同じ言葉なので間違いやすいのですが、森田は『「神経質」という言葉が最も正しい、近い症候分類である』と主張し、神経質の範囲に、普通神経症、発作性神経症、強迫神経症の三つを挙げています。普通神経症は、例えば「ちよつと胃腸の具合が悪い。胃が悪いんじゃないか」と気にして悩む胃腸神経症のようなタイプ。発作性神経症の代表的なのは「心臓発作を起しそう。そのために死んでしまうの

同じ強迫神経症であっても症状は千差万別、どこに注意がいつてそうなるかは人によってまちまちです。それらをひとくくりに「神経質」として名付け、その治療法を開発した。これは大変なことだと思います。

あるとき、鎌倉の円覚寺の朝比奈宗源という老師が、学園祭に講演に来るといので、聴きに行きました。内容よりも「大勢の前で話をしている態度がすばらしい」と思い、その数カ月後に円覚寺で大学の座禅会接心があったというのを聞いて参加しました。一日一〇時間も座り続けるとても厳しい修行ですが、七日間泊まり込んでやりました。そうしたらすつかり治ってしまいました。まるで雲の上でも歩いているような感覚でした。「これですつかり治った」と思いました。

その世界で、心底困り果てました。それでもどうにか大学に合格でき、最初は授業に出ていたのですが、せっかくなので予習していても、先生に当てられると緊張してしまい頭が真っ白になり、人前でも話せない。「これではとても大学生活は送れない」と悩みました。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。



畑野文夫氏

畑野 森田療法では「体験」が重要な要素になっています。私がこの本を書いたのも、森田療法を実際に体験して、「日本生まれの世界的な精神療法をもう少しわかりやすく世に伝えたい」と思ったからです。森田療法そのものからして、森田自身が一五歳で心臓神経症になり、それから一五年間さまざまな症状で苦しんだという体験がなければ生まれなかつたでしょう。

畑野 私の神経症は、森田療法の世界では「神経質」と呼びます。人の性格を表す「神経質」と同じ言葉なので間違いやすいのですが、森田は『「神経質」という言葉が最も正しい、近い症候分類である』と主張し、神経質の範囲に、普通神経症、発作性神経症、強迫神経症の三つを挙げています。普通神経症は、例えば「ちよつと胃腸の具合が悪い。胃が悪いんじゃないか」と気にして悩む胃腸神経症のようなタイプ。発作性神経症の代表的なのは「心臓発作を起しそう。そのために死んでしまうの

同じ強迫神経症であっても症状は千差万別、どこに注意がいつてそうなるかは人によってまちまちです。それらをひとくくりに「神経質」として名付け、その治療法を開発した。これは大変なことだと思います。

あるとき、鎌倉の円覚寺の朝比奈宗源という老師が、学園祭に講演に来るといので、聴きに行きました。内容よりも「大勢の前で話をしている態度がすばらしい」と思い、その数カ月後に円覚寺で大学の座禅会接心があったというのを聞いて参加しました。一日一〇時間も座り続けるとても厳しい修行ですが、七日間泊まり込んでやりました。そうしたらすつかり治ってしまいました。まるで雲の上でも歩いているような感覚でした。「これですつかり治った」と思いました。

その世界で、心底困り果てました。それでもどうにか大学に合格でき、最初は授業に出ていたのですが、せっかくなので予習していても、先生に当てられると緊張してしまい頭が真っ白になり、人前でも話せない。「これではとても大学生活は送れない」と悩みました。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

た。そのころです。森田療法というものがあると知り、森田のところに入院した体験があるという鈴木先生に目星をつけ相談に行きました。そこで言われたのが、「君のは、典型的な強迫観念の対人恐怖症だ」。

「これは何とも興味深い精神療法だ。いずれ本にしたい」という希望を持っていました。そんなときに鈴木先生が亡くなられ、たまたま遺品のなかに森田の日記があることがわかり、息子さんから譲ってもらい読むことができました。これが大変おもしろい。一年間かけて一七冊のノートを読み、一冊の本にまとめることができました。

三浦 この本のおもしろさの背景にあるのは、畑野さんの実体験ですね。どんな精緻な論述よりも、実際の体験には敵わないと思います。実体験の迫力と、森田の日記を丹念に読まれたことから見えてくるものに深い味わいがあります。

死への恐怖

三浦 森田の人物について、「森田正馬は確かに画期的な精神療法を開発したが、哲学・文学・芸術への興味関心はそれほどではなかったのではないか」という人もいます。ですが畑野さんは「決して興味関心が薄いとは言えない。日記を丁寧に読む限り、むしろ非常に関心が強かった」と仰っています。

森田自身が子どものころに恐ろしい「体験」をしていて、それが森田療法を生み出していく力になったのではないかといいことですね。九歳か一〇歳のころ、村の寺で極彩色の地獄絵を見たという。

畑野 森田は、かなり豊かな農家の長男として生まれました。近くに真言宗の金剛寺という菩提寺があり、よく遊びに行っていた。母親の性質を受け継ぎ、非常に信心深かったようです。今はもうその絵は残っていませんが、「たまたまお寺にあった地獄絵を見て、子ども心に、死への恐怖に襲われた体験がある」と書いています。

それから何年か経ち、一五歳のときに心臓発作（心悸亢進発作）を起こし、医者に言われて一年間中学校を休学しています。その後も頭痛や神経痛に襲われたり、脚気の診断を

受けたりした。森田本人によると、「その後なくなつたので、それらすべて神経質の症状だった」ということになりました。

森田は一五歳から三〇歳近くまで神経質の症状で苦しんでおり、その体験がなければ精神医学の道には進まなかったのではないかと思います。子どものときに死の恐怖に襲われたこともあり、哲学志向が強かったようです。その一方で、手先の利く父親の影響からか、物を作るのが巧みな器用な人でした。明治という時代の風潮もあるでしょうが「哲学では国のためにならないのではないか。国に役に立つのは工学では」と考え、工学部に進もうとした。そうしたら、父親から経済的に無理だと反対され「岡山医専に行け」と勧められた。「医者は嫌だ、医学は嫌いだ」と逆らい、工学をやるために何としても高等学校へ行くべく親と半年間話し合いました。ところが、父親は相変わらず反対し、結論は出な

いまだだった。そこへちょうど、中学校の先輩で大阪で医者として成功した人から「養子になってくれたら、大学卒業までの奨学金を出す」という願ひでもない話が舞い込んだ。その話に飛びつき熊本五高へ進むことになりました。「高等学校へ進めれば何でもいい」という態度で、最初は乗り気でなかった医学コースに進学し、自身の神経質の体験があるものだから自然に精神医学の方向へ進みました。

三浦 のちに森田療法という画期的な療法を開発していく根本に、子どものころ地獄絵を見て死への恐怖に襲われたという体験があったかと思うのですが、非常に繊細で敏感なタイプだったのではないのでしょうか。

畑野さんの本でいえば、当時は、呉秀三、藤村トヨ、フロイト、クレペリン、モンテッソーリらが同時代人でした。他にも、例えばウィリアム・ジェイムズは心理学と哲学で意識の流れを、ベルクソンは生きた現実の直観的把握ということを説いた時代です。呉秀三は、クレペリンの精神医学を学び、従来の精神病に対

三浦衛



する発想を転換させました（ちなみに呉秀三は夢野久作の『ドグラ・マグラ』に登場する呉一郎のモデルになっているようです）。そういう意味でこの時期は、二〇世紀の始まりにあたり、「ベル・エポック」「モダニズム」などと呼ばれ、さまざまなジャンルで大きく変化していく時代でした。森田もそういう時代の影響は多かれ少なかれ受けているでしょうけれど、既存の学派に属するのではなく、「森田療法」という画期的な療法を編み出していった第一の理由として、やはり自身の実体験が大きかっただろうと想像します。

森田療法の誕生

三浦 森田療法は急にできたわけではなくて、いろいろな人からの教えや影響があったと考えられます。しかし画期的だったのは、巣鴨病院の看護長だった永松アイを森田の自宅に住まわせて療治したことでしょうか。

畑野 そうですね。森田が医師として勤めていた巣鴨病院には東京帝大精神科の医局がありました。その看護長の永松アイが神経衰弱でとても仕事ができないということ、「家に来て静養しなさい」ということになり引き取るんです。一九一九年四月のことです。友人の内科医に診せたら「体は何も問題ない」と言われた。二、三日してから、森田の

奥さんが永松に家事手伝いをさせて、普通の生活をさせるようにした。そうしたら、一カ月ほどしてよくなり復帰することができました。

もちろん、それまでの二〇年間にわたる研究の地下や試行錯誤があった上でそうなったのですが、森田はその直後に「家庭療法」と名付け、「家庭に患者を引き取り、食事から何から一緒に生活する」という療法を始めたわけです。「神経衰弱」は、そう呼ばれているだけで実のところ神経の衰弱によるものではない。とにかく、特別な治療を施すのではなく、一カ月、患者がごく普通の生活を医者と一緒に送る過程で元に戻った。これが森田療法で治った患者の第一号になりました。

そこで森田は「これだ」と目が開けたんです。当時は民間療法や迷信的な療法がいろいろあり、森田もおまじないや祈祷などの試行錯誤を行いました。森田のそういうところも非常におもしろい。「妖怪博士」と言われた井上田了の膨大な著作を愛読したりしています。

三浦 畑野さんご自身、学生時代に入院されていた。鈴木知準も森田のところに入院していた。入院森田療法というのは今もあるのでしょうか。

畑野 現在は、家庭療法的な入院施設がなくなっていました。今でも入院森田療法を続けている病院は全国に三カ所あります。ただ、いずれも大病院のなかの一部で細々と行われているだけです。本来の森

田療法とは少し違うんです。

森田は、永松アイを第一号として始めた家庭療法より以前に、精神科の患者四〇〇人以上を抱える大病院・根岸病院の医長を務め、ずっと神経症の治療に取り組んでいました。しかしそれだけではどうも思わしくなかった。近所に下宿させながら自宅で治療を始めていました。それで多少の効果はありましたが、永松アイを家庭に引き取って一緒に生活したことでこれとわかる見事な成果が得られました。

三浦 そこがすごくおもしろいと思います。いろいろ試していたけれど、画期的だったのは「自宅に住まわせ一緒に生活しながら」ということです。

これは仏教とも関係してくるものかもしれません。「人格的な濃密な一対一の関係」となると、精神医療というジャンルを越えていくように思います。

畑野さんご自身の対談が掲載された雑誌『生活の発見』（二〇一九年九月号）に、こういう箇所があります。「強烈な記憶がひとつあります。入院一カ月前のころ、庭のバラ柵に芽が出始めたので、芽を守るためロープを張るよう先生から指示されました。張り終わったころ『君はアタマが悪いねえ』という先生の大きな声が聞こえました。通路までロープでふさいだことが原因でした。庭にいる同輩たちの前でいわれたので、身体中がカッと朱くなるのがわかりました。先生は笑顔です。そのあと、恥ずかしさとともに、緊張が解けるような楽な気持ちになり、ふしぎに先生に対して親しみが湧いてきました。鈴木先生特有の「打ち込み的助言」といわれるもので、時期を見極めて的確な指導をするのです。これは効きました。先生の名人芸といつてよいでしょう。このような「生活のなかでタイミングを見て声をかける」ということになると、精神医療を越えて大事なことを示唆しているように思います。

畑野 森田療法はそもそも入院療法です。ただ、これを実行するのは大変なことです。鈴木先生が森田療法を始めたのは四〇歳からです。「四〇歳にならないければ人の指導はできない」と仰っていました。つまり「人の指導」であって「治療」ではない。「森田療法」というのは人間に対する指導、教育指導である」という考え方があるわけです。これは別に鈴木先生独自の考えではなくて、森田もそういう考え方をしていたということですね。

三浦 そうすると、人と人との出会い、指導に当たる側の人間そのものが問われるということでしょうか。個別の人間を離れた学問としてまとめた体系があり、それを習うと誰でもちゃんと治療できるというものではない。

畑野 そこが一般の内科・外科などの治療と違うところです。「確固たる人生観を持たなければできない」と森田は書いています。入院森田療法が少なくなつてしまつたのは、医者側に「人を指導しよう」という余程の覚悟と責任感がないと難しいからかもしれません。

教育実践としての森田療法

三浦 先ほどの「打ち込み的助言」の箇所を読んだとき、教育実践家の斎藤喜博を思い出しました。森田と斎藤はよく似ている気がします。森田療法は実によく深く、「指導」、つまり人間が人間とかわるることの根本を指し示していると思います。

畑野 森田はモンテッソーリ教育に非常に共感していました。「人間は自己の精神の活動を喜ぶ。内部の自我が成長して大きくなるのを楽しみます。何か一つのことを成し遂げ、かつて非常に喜びである」という見方をしています。一人ひとりが本来持っている能力を自然に発揮させるということに森田療法の根本があると思います。

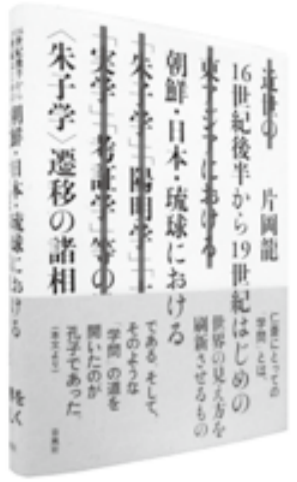
私は対人恐怖症になり森田療法で立ち直りました。多分この経験がな

ければ学べなかったことを学ぶことができました。若いときに三年半も死ぬような思いをしましたが、それがその後の私の土台になっています。森田療法はもちろん病気の治療法としてあるわけですが、森田は「神経質の悩み」というのは誰にでもある」と言っています。悩むことは普通で誰にでもあることです。森田の考え方は一般の人に通用する教育論であり、生き方の手本や参考になるはずですね。

三浦 僕が森田療法や森田正馬に興味を持つようになったきっかけも、自分の病気の体験があります。もつとも僕の場合は恐怖症というよりうつ病でしたが、森田正馬は「うつ病は森田療法では治らない」と言っていたのですが、鈴木知準によると治せるそうです。僕は森田療法を直接受けたことはありませんが、森田の本を読むと、何となく気が晴れる。なぜ気が晴れるかというと、人とかわるときに、理屈ではない「一対一の関係」のなかで、息が深くなり、「この人についていけばもつと元気になるんじゃないか」と感じさせてくれるからではないかと思えます。

畑野さんの本とフロリアン・イリスの『1913—20世紀の夏の季節』をあわせて読むと、モダニズム以降、神経症の時代が現代まで続いているのではないかと気がつきます。人と人が人格的につながり四つに組んで指導したり指導されたりということがあまりにも少ない。そういうなかで、いろいろなとらわれが生じてくるという気がしています。森田が述べているのは、自己自身にとらわれている状態をあれこれ考えるのではなく、あれこれ考えながらでもなんでも、とにかく目の前の具体的なことに手をつける、そのなかでその人なりに発見していく、いわば自己に頼着しないための指導、人間的教育でも言うべきものでしょうか。森田療法の思想は、療法を超えて、実体験を踏まえつつ人と人との関係の根本を指し示す非常に射程の広いものだと思います。本日は、

哲学・思想・宗教



16世紀後半から19世紀はじめの朝鮮・日本・琉球における『朱子学』遷移の諸相

片岡龍 (東北大学教授)
「仁斎」とつての「学問」とは、世界の見え方を刷新させるものである。そして、そのような「学問」の道を開いたのが孔子であった(本文より)。西洋近代由来の学術概念を超え、時代時代のさまざまな地域思想家の思想的営為を丹念に読み解き、思想潮流の大きな変化を跡づける。A5判上製・三三頁 定価(5400円+税) ISBN 978-4-86110-681-1

死ぬ権利はあるか

安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値
有馬斉 (横浜国立大学准教授)
死期を早めようとするまいを自身、家族、医療者がとることは許されるか？死ぬ権利について擁護派と反対派の議論を整理し、豊富な事例や各国・地域の政策的取り組みも参照しながら検討。人の命が持つ価値の大きさと根拠を問い直し、倫理的・政策的な判断の基礎となる考えを提示する。四六判並製・五五八頁 定価(4300円+税) ISBN 978-4-86110-624-8 二刷



朝鮮儒学の巨匠たち

韓亨祚 (韓国学中央研究院教授) 著/片岡龍 (東北大学教授) 監・解説/朴福美 (韓国語教室主宰) 訳
儒学の本質を「生の技術」ととらえ、独自の発展を遂げた朝鮮儒学を、巨匠たちの思想を辿りながら跡づける。 ¥5500 ISBN 978-4-86110-500-5

深い河の流れ―宗教多元主義への道

長谷川 (間瀬) 恵美 (桜美林大学准教授) ISBN 978-4-86110-604-0 ¥2200
そこには何かある―「この自分」が在るといふ不思議 牟田隆郎 (元聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-612-5 ¥1800

カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅沢龍文・中澤武・山根雄一郎 訳

ISBN 978-4-86110-479-4 ¥9000
巫者のいる日常―津軽のカミサマから都心のスピリチュアルセラピストまで 村上晶 ISBN 978-4-86110-558-6 二刷 ¥3500

思想家としての石橋湛山―人と時代

山口正 (石橋湛山記念財団評議員) ISBN 978-4-86110-472-5 二刷 ¥3000
徂徠と崑崙 末木恭彦 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-494-7 ¥3500
随想 西田哲学から聖霊神学へ 小野寺功 (清泉女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-464-0 ¥3500

超越する実存―人間の存在構造と言語宇宙

棚次正和 (京都府立医科大学教授) ISBN 978-4-86110-391-9 ¥4500
横越の倫理―ローティ、ハイエク、シンガ―を超えて 谷口隆一郎 (聖学院大学教授) ISBN 978-4-86110-393-3 ¥3333
直接知の探求―西田・西谷・ハイデッカー・大拙 松丸壽雄 (獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-347-6 ¥4000

新井奥邃

新井奥邃著作集(1、4、10巻品切) 工藤正三(新井奥邃先生記念会幹事)・コルダニエル(元福岡女学院大学教授) 共編 各巻¥5500 ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700
奥邃論集成 春風社編集部 編 ISBN 978-4-86110-424-4 ¥2700
おすすいポケット 新井奥邃語録抄 三浦衛・コルダニエル編 白表紙 ISBN 978-4-86110-454-1 黒表紙 ISBN 978-4-86110-455-8 各巻¥2200

「ただ人間であること」が持つ道徳的価値―相互に尊重し合う自由で平等な個人が築く民主主義

浜野研三 (元関西学院大学教授) 「種差別批判」に潜む優生学的思考を批判し、人間同士の関係の質の多様さを深くに着目。道徳的平等に基づいた民主主義論を展開する。 ¥3500 ISBN 978-4-86110-636-1

人間形成としての教養―ハンガリー、フィンランド、日本におけるドイツ的理想的受容と将来展望

高橋輝暁 編 ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2000
律から密へ―晩年の慈雲尊者 秋山学 (筑波大学教授) ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

哲学はじめの二歩 楽しむ/働く 立正大学文学部哲学科 編

ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241
立正大学文学部哲学科 編 ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241
鈴木大拙の「日本の霊性」―エマヌエル・スウェーデンホルグ新井奥邃との対比から 那須理香 ISBN 978-4-86110-554-8 ¥4500
教えることの哲学 ジョン・パスモア 著/小澤喬 (東京理科大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-376-6 ¥4100

越境する哲学―体系と方法を求めて

村上勝三 (東洋大学名誉教授)・東洋大学国際哲学研究センター 編 ISBN 978-4-86110-478-7 ¥5500
死生学―死の隠蔽から自己確信へ 岩崎大 (東洋大学研究助手) ISBN 978-4-86110-438-1 ¥3982
虚構の形而上学―「あること」と「ないこと」のあいだで 中村靖子 (名古屋大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-436-7 ¥3500

風についての省察―絶対無の思つかいをもとめて

松山康國 (関西学院大学名誉教授) ISBN 4-921146-85-3 ¥3333
〈文化〉の思想―現代日本の位置から 西欣也 (甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-323-0 ¥2200
犠牲と身代わり―記憶できないものをめぐって 長田陽一 (京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-275-2 ¥2200
心理臨床と脱構築の経験―〈他者〉をめぐる 長田陽一 (京都光華女子大学教授) ISBN 978-4-86110-345-2 ¥2400

飯説法の倫理学―ポー・ハース・ハイデッカー

村上隆夫 (群馬大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-309-4 ¥5600

キルケゴールの実存解釈―自己と他者

河上正秀 (筑波大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-597-5 ¥3500

哲学断章―存在・ことば・光

北岡崇 (元植山女子園大学教授) ISBN 978-4-86110-583-8 ¥3700

姿を変えたキリスト―みなし子を育てたシスターたち

菊地草太 (東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-475-6 ¥2200

リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション

稲垣論 (東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-303-2 三刷 ¥2381

飯説法の倫理学―ポー・ハース・ハイデッカー

村上隆夫 (群馬大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-309-4 ¥5600

日々の風

暮らしのなかの哲学

21 香月泰男の手作りおもちゃ

目下執筆中の『日本精神史』(近代編)に山口県の画家・香月泰男を取り上げようと思っ
ていて、この二月、下調べを兼ねて画家の郷
里の同県長門市にある香月泰男美術館を訪れ
た。
降り立った山口宇部空港は瀬戸内海に張り
だした閑散とした田舎の空港だったが、そこ
から日本海方面へと向かう自動車道路も、周
囲には丘陵と野原と畑の広がる田舎の風景で
家はぼつんぼつんとあるだけだし、人のすが
たはほとんど見かけなかった。美術館の周辺
も静まり返っていて、隣の島根県の田舎町に
生まれ育ったわたしは胸底になつかしさがこ
み上げた。
香月泰男といえば、なにより極寒の地での
捕虜生活の経験を絵にした「シベリア・シリ
ーズ」の画家だ。「シベリア・シリーズ」は
山口県立美術館にまとめて収められていて、
ここ香月泰男美術館に展示されるのはそれ以
前の絵が多い。
それらの絵はどうしても「シベリア・シリ
ーズ」と関連づけて見ることになるから、暗
く重たい絵という印象を拭いがたい。同じく

シベリアに抑留された石原吉郎や高杉一郎の
ことなどを思いながら絵を見て歩いているう
ち、廊下の、横に長く広がるガラス張りの大
陳列ケースに、即興で作ったと思えるような、
遊び心に満ちた呑気な人形が、あつち向き、
こつち向きして並んでいるのに出会って、気
分が大きく変わった。暗く重たい絵をまじめ
に見つめているこちらに、人形が、そして鳥
や虫やけものが、もつと楽しくこつちよと呼
びかけているようなのだ。
見ると素材は、木切れや板切れ、ブリキ板
や銅板や針金といった、そこらに転がってい
る廃品の類だ。それを切ったり削ったりして
組み合わせ、ときに色を塗って、それらしい
形に仕上げた作品だ。上手に作るより、
おもしろくすることに心が配られている。板
切れや針金が目にとまったときに作者に遊び
心がわき、作る遊びのなかで作者はなんの変
哲もない素材をいとおしんでいる。
苛酷なシベリア体験ののちに画家がそんな
制作のときをもつことができたと思うと、心
がなごむようだった。
(哲学者)

◎各書籍の左下に¥で示している数字は税抜価格です。



自著を語る

片岡龍

『16世紀後半から19世紀はじめの
朝鮮・日本・琉球における〈朱子学〉遷移の諸相』



約40字におよぶ長い書名です。日本語で出版された学術書としては、ひょっとして最長の部類かもしれません。春風社さんもアタマを抱えられたんじゃないでしょうか。しかし、デザイナーの長田年伸さんがその冗長さを逆手にとった画期的装丁をされ、表紙そのものが、本書が打ち出そうとした学術的立場の明快なマニフェストになりました。

図書館職員のみなさんへのお願ひ：本書を配架される際にはカバーを外さず、ぜひそのままラミネートしてください。けっして安価でない本書の価値の三分の一はこの表紙にある！ といって過言でないからです。

長い書名の由来は「まえがき」に書きました。少しだけ覗いてみましょうか。

……ずいぶん長々しくもわかりづらい書名である。

「16世紀後半から19世紀はじめ」の部分は、かたんに「近世」と言い換えられそうだし、「朝鮮・日本・琉球」は、「中国」が抜け落ちているものの、「東アジア」と言っても良さそうに思われる。一方、ふつう「朱子学」「陽明学」「古学」「心学」「実学」「考証学」等と称される思想群が、「〈朱子学〉遷移の諸相」と強引に一括されている。

しかし、この長々しくもわかりづらい書名に、本書の苦心が籠められている。……

この後につづく部分に記した「本書の苦心」については、実際に表紙をめくっての楽しみにとっておき、長田さんの装丁について蛇足ながら解説してみると、「近世の」とドギツイ赤線で見せ消にした次行に「16世紀後半から19世紀はじめ」と、「東アジアにおける」、「朱子学」「陽明学」「古学」「心学」「実学」「考証学」等の思想群のそれぞれ次行に「朝鮮・日本・琉球における」、「〈朱子学〉遷移の諸相」と配置することによって、「古代／中世／（近世／）近代」といった地域区分など西洋近代由来の学術概念の暴力性にたいする著者の姿勢が、一目瞭然に示されました。

西洋自身が西洋近代の問題の克服に努めはじめた現在、パンデミックや気候変動など越境的な課題が次々と到来するいま、〈地球上のすべての思想的営みは、複雑に絡み合いながら進展している〉との学的展望に立つ本書を、ぜひ手にとっていただきたいと希望します。(4頁に本の紹介)

AUTHOR

神西清の散文問題

小林美 (十文字学園女子大学准教授)

チェーホフ、ツルゲーネフ、プーシキン、ジツドの翻訳者である神西清が日本語と格闘した軌跡をたどり、翻訳魂の真髄に迫る。

四六判上製・二四八頁 定価(3900円+税)
ISBN 978-4-86110-667-5



ポール・ボウルズ越境する空の下で

外山健一 (山口大学准教授)

ボウルズにとって「移動」とは何であったのか？ どのようにイスラーム圏のマダレを表象したのか？ 越境する作家の魅力の根源を探る渾身の論考！

四六判上製・四二四頁 定価(3500円+税)
ISBN 978-4-86110-683-5



個から群衆へ

アメリカ国民文学の鼓動

佐久間みかよ (学習院女子大学教授)



植民地時代のピューリタンから、ホーソン、メルヴィル、トウエンを経て、現代のチカーナ作家まで、「個から群衆へ」という流れの中に位置づけて読むアメリカ文学の成り立ち。

四六判上製・三〇〇頁 定価(3400円+税)
ISBN 978-4-86110-663-7

Shakespeare Performances in Japan: Intercultural-Multilingual Translingual

浜名恵美 (筑波大学名誉教授)

日本における多彩なシェイクスピア上演を、異文化コミュニケーション・相互理解・超言語実践の研究と結び付け、その特色を解明。

ISBN 978-4-86110-657-6 ¥5500

救いと寛容の文学―ゲテからフォークナーまで

今村武 (東京理科大学教授) 内田均 (横浜美術大学教授) 川村幸夫 (東京理科大学名誉教授) 佐藤憲一 (東京理科大学教授)

「救い」という視点から米英独の文学作品を直読し、文学に秘められた精神的挑発性を解き放つ。

ISBN 978-4-86110-654-5 ¥3500

めぐりあうテキストたち―ブロンテ文学の遺産と影響

岩上はる子 (滋賀大学名誉教授) 編

シャーロットとエミリの影響を直接・間接に受けた、あるいは何らかの接点を見出しうる同時代および後世の作家・作品を論じる。

ISBN 978-4-86110-629-3 ¥3500

村上春樹 精神の病と癒し

南富鎮 (静岡大学教授) 精神の病は不可逆である。一九七〇年と一九七三年にいったい何が

あったのだろうか(本文より)。病理は文化現象であるとの認識に基づき、村上春樹の文学を精神の病と癒しの側面から読み解く。

ISBN 978-4-86110-652-1 ¥2700

『パターソン』を読む―ウィリアムズの長篇詩

江田孝臣 (元早稲田大学教授)

アメリカのモダニズム詩人ウィリアムズの代表作『パターソン』。J・ジャームツシュ監督の同名映画にヒントを与えたこの長篇詩が追求める「アメリカ的なるもの」とは。

ISBN 978-4-86110-645-3 ¥3500

ジョイスの拡がり―インターテキスト・絵画・歴史

田村章 (金城学院大学教授)

未完のカミュ―絶えざる生成としての揺らぎ

阿部いそみ (東北文教大学短期大学部教授)

翻訳とアダプテーションの倫理―ジャンルとメディアを越えて 今野喜和人 (元静岡大学教授)

ISBN 978-4-86110-623-1 ¥3700

D・H・ロレンスと雌牛―サン・ロレンスの神秘主義をめぐるW・D・ヘンタール著／木村公一・倉田雅美・小林みどり訳

ISBN 978-4-86110-627-9 ¥4000

揺れ動く(保守)―現代アメリカ文学と社会

山口和彦 (上智大学准教授) 中谷崇 (横浜市立大学准教授) 編

黙って踊れ、エレクトラ―ホフマンスタールの言語危機と日本 関根裕子 (早稲田大学等非常勤講師)

ISBN 978-4-86110-637-8 ¥4200

非在の場を拓く―文学が紡ぐ科学の歴史

中村靖子 (名古屋大学准教授) 編

アメリカは日本文化をどう読んでいるか―村上春樹 吉本ばなな 宮崎駿 押井守 芳賀理彦(敬愛大学准教授)

ISBN 978-4-86110-605-7 ¥3000

エミリー・テイキンソンを理詰めで読む―新たな詩人像をもとめて

江田孝臣 (元早稲田大学教授)

アレゴリーで読むアメリカ／文学―ジェンダーと「シンク」の修辭学 武田悠一 (元南山大学准教授)

ISBN 978-4-86110-569-2 ¥3500

『フィネガンス・ウェイク』のフロログを讀む―IvernunからPhoenixへ 奥田良二(東海大学准教授)

ISBN 978-4-86110-575-3 ¥3000

一人の詩人と二人の画家―D・H・ロレンスとニーマキシコ・メリル著／木村公一・倉田雅美・伊藤芳子訳

ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100

外見の修辭学―十九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説

福井崇史 (國學院大学准教授)

グロテスク・美のイメージ―ドムス・アウレリア・ピラネーシからフロヘルまで 武末祐子 (西南学院大学准教授)

ISBN 978-4-86110-588-3 ¥3200

文学という名の倫案―文芸批評理論と文学研究へのアプローチ

寒河江光徳 (創価大学准教授)

身体と感情を読むイギリス小説―精神分析、セクシュアリティ、優生学 武田美保子 (京都女子大学准教授)

ISBN 978-4-86110-595-1 ¥2200

文学とアダプテーション―ヨーロッパの文化的変容

小川公代・村田真一・吉村和明編

ISBN 978-4-86110-559-3 二刷 ¥2200

世紀末の長い黄昏―H・G・ウェルズ試論

宗洋 (高知大学准教授)

ISBN 978-4-86110-550-0 ¥2700

文学とアダプテーション―ヨーロッパの文化的変容

小川公代・村田真一・吉村和明編

松本清張の葉脈

南富鎮 (静岡大学教授)

ISBN 978-4-86110-557-9 ¥2700

キャサリン・マンスフィールド―荒地を吹き渡る風のように自由

手塚裕子 (川村学園女子大学名誉教授)

文学都市タリン―ゆかりの文学者たち

木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授) 編

ISBN 978-4-86110-518-0 ¥3700

カポーティ小説の詩的特質―音と文彩

大園弘 (九州国際大学准教授)

バルザックの文学―ジェンダー―女性作家との比較から分かること 東辰之介 (駒澤大学准教授)

ISBN 978-4-86110-533-3 ¥3600

スコットランド、一八〇三年―ワースワス兄妹とコールドリッジの旅

安藤潔 (関東学院大学准教授)

帝国と文化―シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで 江藤秀一 (筑波大学名誉教授) 編

ISBN 978-4-86110-517-3 ¥3500

異文化理解とパフォーマンス―Border Crossers

松田幸子・笹山敬輔・姚紅 編著

ハブリック圏としてのイギリス演劇―シェイクスピアの時代の民衆とドラマ 中村友紀

ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000

ペーター・フルヘル―現代詩への軌跡

土屋洋一 (元愛知大学准教授)

フィリップ・ラーキン―愛と詩の生涯

高野正夫 (駒澤大学名誉教授)

ISBN 978-4-86110-477-0 ¥2200

T・S・エリオットの詩を解読する

滝沢博 (元高岡法科大学准教授)

神奈川ゆかりの作家たち

最賀進 (S A I G A ハウス代表)

ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500

敗戦・憂国・東京オリンピック―三島由紀夫と戦後日本 洪潤杓(誠信女子大学校助教授) ISBN 978-4-86110-463-3 ¥3000

美しき汚れ―アーサー・マンビーとウィクトリア朝期女性労働者の表象 吉本和弘(県立広島大学教授) ISBN 978-4-86110-442-8 ¥3000

中世英語英文学―その言語・文化の特質 菊池清明(元立教大学教授) ISBN 978-4-86110-428-2 ¥500

中世英語英文学II―The Sound of Literature 菊池清明(元立教大学教授) ISBN 978-4-86110-488-6 ¥7500

秘密のラティガン―戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子(東京学芸大学講師) ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700

マーガレット・オブ・ヨークの世紀の結婚―英国史劇とブルコニコ公園 大谷伴子(東京学芸大学講師) ISBN 978-4-86110-419-0 一刷 ¥2700

交錯する戦争の記憶―占領空間の文字 黄益九(在日コリアン研究所) ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300

名譽革命とイギリス文学―新しい言説空間の誕生 富樫剛(フェリス学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000

ジョージ・エリオットの異文化世界 高野秀夫(駒澤大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333

トルストイと生きる 藤沼賢(早稲田大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762

戸籍の謎と丸谷才一 ノーントン不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800

乱歩彷徨―なぜ読み継がれるのか 紀田順一郎(評論家・作家) ISBN 978-4-86110-284-4 二刷 ¥1905

作品は「作者」を語る―アラビアン・ナイトから丸谷才一まで ノーントン不破直子・内山加奈枝 編著 ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857

朝鮮神話の源流―「ハリ公主神話」と「タンクン神話」を巡って 金香淑(元白田大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500

永井荷風 ソライズムの射程―初期作品をめぐって 林信蔵(福岡大学准教授) ISBN 978-4-86110-222-6 ¥3619

アントニオ・タフッキ 反復の詩学 花本知子(京都外国語大学准教授) ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000

Beowulf 橋本修一(千葉工業大学教授) ISBN 4-86110-060-7 ¥2000

カズオ・イシグロ―「日本」と「イギリス」の間から 荘中孝之(京都外国語短期大学教授) ISBN 978-4-86110-255-4 三刷 ¥3000

なぜ男は雀野頼子を畏れるのか 海老原暁子(元立教大学院短期大学教授) ISBN 978-4-86110-318-6 ¥2381

ラフカディオ・ハーンとジェイムズ・トムソン『四季』をめぐって 先川暢郎(台殖大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-285-1 ¥3333

新版文学にむく十字架 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 978-4-86110-354-4 ¥2800

小出龍重―光の憂鬱 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-921146-34-9 ¥2200

英詩に魅せられ―エリオットからラーキンまで 堀田三郎・大飼誠 共編 ISBN 978-4-86110-305-6 ¥2476

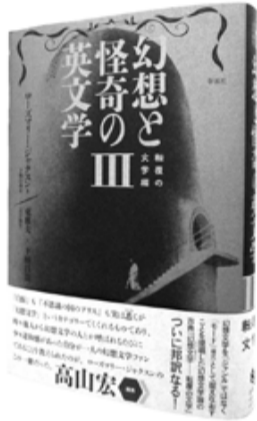
龍の星霜―異端の劇作家青江舜二郎 大嶋拓(映画作家) ISBN 978-4-86110-274-5 ¥1500

シリーズ 幻想と怪奇の英文学

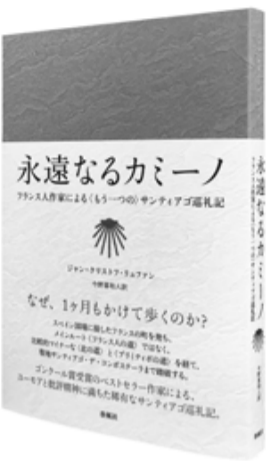
幻想と怪奇の英文学 東雅夫(ソノロジスト・評論家)・下楠昌哉(同志社大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-404-6 一刷 ¥2700

幻想と怪奇の英文学II―増殖進化編 東雅夫・下楠昌哉 編 ISBN 978-4-86110-516-6 ¥3200

幻想と怪奇の英文学III―転覆の文学編 東雅夫・下楠昌哉 編 ISBN 978-4-86110-622-4 ¥3700



文学



永遠なるカミーノ

フ랑스ス人作家による 〈もう一つの〉サンティアゴ巡礼記 ジャンリュック・ストフ・リュファン 著 今野喜和人(元静岡大学教授) 訳

鱒 hatahata 三浦浩(春風社代表) ISBN 978-4-86110-610-1 ¥2200

荒地 T・S・エリオット著 滝沢博(元高岡法科大学教授) 訳・解説 ISBN 978-4-86110-649-1 ¥2900

説得されて ジェイン・オースティン著 藤田永祐(獨協大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-620-0 ¥2500

イブの娘 オノレ・ド・バルザック 著 宇多直久(元滋賀大学講師) 訳 ISBN 978-4-86110-628-6 ¥2100

孤独な殿様 ノーントン不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-617-0 ¥1500

詩集 時のなかに 北岡武司(岡山大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-616-3 ¥1800

25

翻訳ピンチ!

中条省平 SHOHEI CHUJO

定訳など存在しない

さて、前回は、マンディアルグの小説『すべては消えゆく』の拙訳を文庫化するにあたって、主人公男女の会話をもっと現代的にしてほしいという編集部要望を受けて立ち往生したところまででした。翻訳者はひとつの翻訳を終えると、往々にしてその訳文のかたちが完成した絶対的なものだという錯覚に陥りがちです。しかも、訳語のひとつひとつが、ある必然性をもって翻訳全体と結びついていると思ひこみ、ひとつの表現を改めることは全体の変更につながると考えてしまいます。『すべては消えゆく』の会話を現代化しなければならぬという要請に直面したときの私も、部分を変えることは全体を変えることであり、したがって、これは全面的な改訳になるぞと思って、やる気をなくしてしまっただけです。しかし、考えてみれば、翻訳とはできあがったそばから古びていく運命にあり、絶対的な定訳などというものは存在しないのです。私の『すべては消えゆく』の翻訳も、もうすでに24年も前のものであって、20数年

も経てば、赤ん坊だって立派な大人になるのですから、相当古びているのは当然のことです。それをずいぶん古びたなあと感じられないのは、翻訳者の感性が20数年前でストップしていることの証しにほかなりません。そのことへの危機感がぜんぜんないじゃないか、と私は猛省しました。 ありがとう、O都さん。私は会話の現代化を提案してくれた若い編集者に感謝し、あらためて自分のかつての訳文を見直しました。フ랑스語の原文を知っていることの優越感のようなものを叩きつぶし、この小説をいま初めて読む若い読者の姿を想像しながら、訳文を改めていきました。 そうはいつでも訳者個人の力量には限りがあり、全面的なリニューアルとまでは行きませんが、それでも新装開店くらいの訳文にはなったかなと思っています。この新訳がようやく先日、本になりました。(仏文学者)



イラスト: たけなみゆうこ

古英語叙事詩『ベオウルフ』―クレバー第4版対訳 吉見昭徳(明治学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-572-2 ¥4000

鐘の音が響くカフェで ポール・ヴァッカ著 田村奈保子(福島大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-606-4 ¥2500

トロイア戦争の三人の英雄たち―アレクストとアイアスとオテッセウス 川井万里子(東京経済大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-613-2 ¥2500

二つの季節 松永澄夫(東京大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-601-9 ¥1000

太陽と黄昏と夜 詩的風景 高野正夫(駒澤大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-589-0 ¥1800

バルザック王国の裏庭から―リュジェリーの秘密と他の作品集 宇多直久(元滋賀大学講師) 編著 ISBN 978-4-86110-544-9 ¥2500

画文集 旅の貼り絵 安田彰(元亜細亜大学教授) ISBN 978-4-86110-546-3 ¥1750

八月の瓜―母へ 彭学明著 立松昇一(拓殖大学教授) 舟山優士(翻訳家) 訳 ISBN 978-4-86110-520-3 ¥2500

カメレオン 三浦浩(春風社代表) ISBN 978-4-86110-473-2 ¥2200

鎌倉三猫物語 ノーントン不破直子(日本女子大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500

鎌倉三猫いままたひ ノーントン不破直子(日本女子大学名誉教授) 編 ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500

クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ著 井原慶一郎(鹿児島大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-474-9 二刷 ¥1500

デテムシ 新美南吉詩歌集 石川勝治(長崎県立大学名誉教授)・斎藤卓志(民俗館) 編 ISBN 978-4-86110-406-0 ¥1800

スウェーデン民話名作集 藪下紘一 訳 III ISBN 978-4-86110-339-1 IV ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905

いないも同然だった男 パトリス・ルコント 著 桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-458-9 二刷 ¥1800

愉しきは最後に パトリス・ルコント、ダヴィッド・デカンヴァル 著 桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800

エドワード・トマス訳詩集 吉川朗子(神戸市外国語大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000

エルビー・メルゲンとセシの太陽―モンゴルのいつたえ集 塩谷茂樹編訳 Ya・バタムハインドラム執筆 ISBN 978-4-86110-338-4 ¥1600

お爺ちゃんとお砲 オタ・フィリップ 著 北岡武司(岡山大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500

人生の請求書 石橋幸子(春風社専務) ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300

カフェの女主人 レイモン・ジャン 著 桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-356-8 ¥2200

邂逅 岩田澄江 ISBN 978-4-86110-324-7 ¥952

モーツァルトの息子 ジャック・トゥルニエ 著 高井道夫(元上智大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-242-4 ¥2200

空にあがったハイエナー ケニア・キクユの民話集 杜由木 ISBN 978-4-86110-301-8 ¥1600

写真・音楽・芸術



転生する物語

アダプテーションの愉しみ

渡辺諒 (早稲田大学教授)
原作の魅力をうまく引き出し、時に原作を超えたおもしろさが発見できる翻案作品。古典・現代の著名な七作品が、フランス・ミュージカル、宝塚、ハリウッド映画、劇団☆新感線など、ジャンルによっていかに姿を変えるのか？
四六判並製・二九六頁 定価(2500円+税)
ISBN 978-4-86110-685-9

見る・見せる

中国四川・福建の表演にみる

「演じる」こと・人・空間

細井尚子 (立教大学教授)

常に変わり続ける中国社会において、宗教的・民俗的儀礼や民間の演劇はどのように行われ、享受されてきたのか？ 四川と福建の二つの土地の各儀式・芸能の考察から、それらを見る・見せている人々の生活、思考、感覚を探る。
A5判上製・三九六頁 定価(4500円+税)
ISBN 978-4-86110-671-2



本の縁側

矢萩多聞 (藝道家・画家)
本のまわりにはいつもにぎわいがあり、ちょこんと腰をおろせる場所がある。二〇〇二年〜二〇一九年にデザインした装丁約五〇〇点の書影をカラーで収載。
ISBN 978-4-86110-653-8 ¥2800

明治・大正 東京の歌舞伎興行―その「継続」の軌跡 寺田詩麻 (龍谷大学専任講師)
江戸期より莫大な負債を抱えつつも続けられてきた歌舞伎興行は、近代化によってどう変容したのか。明治・大正期の東京における大劇場経営の諸相を豊富な資料をもとに究明。
ISBN 978-4-86110-631-6 ¥8000

ホベルト・ブルー・マルクスの庭にて ジャック・レナール 監修/荒井芳廣 (大妻女子大学名誉教授 訳)「庭園とは、要するに、通常は用いられない素材を用いて絵画作品を組織し構成するひとつの方法でした」。巨匠ブルー・マルクスの論考とインタビューの集成。
ISBN 978-4-86110-594-4 ¥3200

躍動―横浜の若き表現者たち 細見兼介
横浜を拠点に、新しい「なにか」を創作する若者たち。今まさに芽吹きの際にある、映画監督、演奏家、画家など、若手表現者十四名の思いが綴られたインタビュー集。
ISBN 978-4-86110-640-8 ¥1800

浅草 2011-2016 ―六区ブロードウェイ 日本人の肖像 初沢克利 (写真家)
ISBN 978-4-86110-547-0 ¥7000

「なんだと?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

「なにか?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852

母のアルバム 伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800

父のアルバム 伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

利根川を往く 堀絢 (写真家) 撮影
ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800

物語らないアニメーション―ノーマン・マクワレンの不思議な世界 栗原詩子 (西南学院大学教授 教養) ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500

増補改訂版としての身体―土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ 三上賀代 (京都精華大学教授) ISBN 978-4-86110-465-7 ¥3600

長唄の世界へようこそ―読んで味わう、長唄入門 細谷朋子 (研究者)
ISBN 978-4-86110-400-8 三刷 ¥3400

映画はやるべし―パトリス・ルコント、自作を語る P・ルコント 著/H・プロロンジヨ 聞き手/桑原隆行 訳 ISBN 978-4-86110-433-6 ¥3800

クララ解体 小関与四郎 (写真家)
ISBN 978-4-86110-261-5 ¥15000

フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユニットD アーキエニスムからフランス人戦線まで 山本友紀 ISBN 978-4-86110-405-3 ¥4500

かほちゃの下で―ウガンダ戦争を生きた子どもたち 桜木奈央子 (写真家) 写真・文/伊藤氏 貴解説 ISBN 978-4-86110-259-2 ¥1800

世界写真紀行―美しい自然と文化を訪ねて (海外編・国内編) 渋谷興一
ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500

ドアの映画史―細部からの見方、技法のリテラシー 吉田眸 (元京都産業大学教授)
ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800

アメリカの選択 丸岡永乃 (画家・詩人)
ISBN 978-4-86110-337-7 ¥1800

ハラに染まるぜ! 天才ジャズ本 安原顯 (スーパーエディター)
ISBN 4-921146-62-4 ¥2800

邦訳「カリヴァー旅行記」書誌目録 松本多津男 (社会学者)
ISBN 978-4-86110-276-9 ¥4600

OTHER VOICES 東大全共闘・68-70 平沢豊 (編集者)
ISBN 4-86110-026-7 ¥2800

カレワラ物語―フィンランドの国民叙事詩 キルステイ・マキネン 著/荒牧和子 訳
ISBN 4-86110-034-8 ¥1800

愛の叙事詩 ハルタイヤン物語 ミシェル・ゼヴァコ 著/鈴木惇男 (神戸松蔭女子学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-223-3 ¥2800

横浜の時を旅する―ホテルニューグランドの魔法 山崎洋子 (作家)
ISBN 978-4-86110-296-7 三刷 ¥1600

みらいのゆくえ しろあがり寿 (漫画家)
ISBN 978-4-86110-294-3 ¥1600

マハーヴァキナまたは巫山の夢 三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-342-1 ¥1957

父のふるさと―秋田往来 三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905

出版は風まかせ―おとほけ社長奮闘記 三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300

谷川健一全歌集 谷川健一 (民俗学者・歌人)
ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800

観光・環境・自然

突撃!よこはま村の1000人―自転車記者が行く 佐藤将人 (神奈川新聞記者)
ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500

瀬戸内、鳥瞰の旅―風景の奥を読む 伊藤松雄 (四国学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800

おはあちゃん! 豚となって木に登る 外川洋子
ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500

富士山への招待―NPOが富士山と地域を救う 渡辺豊博 (元都留文科大教授)
ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

失敗しないNPO―グラウンドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ 渡辺豊博 (元都留文科大教授) 編著 ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500

英和の森の植物たち―感じる、遊ぶ、食べる 中池敏之・川崎末美 (東洋英和女学院大学教授)
ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600

コハタンの繁殖―絶滅危惧種保存への挑戦 石川文也 (日本鳥獣学会員)
ISBN 978-4-86110-195-3 ¥2800

しりあがり寿 mini 帰ってきた 大河 23 武者震いの



永四郎は初陣であった。謀反をたくらんだ領内の土豪を討ちに父から三〇〇の軍勢を預かり陣を敷いた。

「いよいよ戦か」 そう思った瞬間、四郎はブルッときた。「武者震い…」 父から聞いていた。戦の前にもものふは武者震いをするもののだ。

周囲の若い武士たちも皆ブルブルと武者震いをしてる。そこへ偵察が戻り、報告するには「敵陣に疫病が流行っております!」

「家に帰って寝ろ!」

四郎は悪寒に震えながら命令された。鼻をすすり咳をしている。周囲の若武者たちもほとんどの者が身体が震えたかと思っ

鼻水がツツとたれてきた。四郎もふしぶしに痛みを感じ、再び偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。

「なんだと?」 「皆身体が震え、やがて高熱が…」 偵察は報告を終えるとブルッと身体を震わせた。

横浜市立大学新叢書

イエス運動・マルコ・哲学

三上真司 (横浜市立大学教授)
 慕、憎悪、迫害、犬の哲学、転倒、ユダヤ人の王、嘲りの即位式、十字架の玉座といった異質な概念から「イエス運動」の本質に迫る。
 四六判並製・三五二頁 定価(3535円+税)
 ISBN 978-4-86110-679-8



教育公務員特例法制定過程の研究―占領下における教員身分保障制度改革構想

高橋寛人 (横浜市立大学教授)
 教特法成立の全過程を、日米の史料に即した案の経緯から検討。教育の論理に基づく教員の身分保障制度を構築する重要性を問う。
 ISBN 978-4-86110-650-7 ¥3000

世界のミュージカル・日本のミュージカル

岩崎徹 (横浜市立大学准教授)・渡辺諒 (早稲田大学教授) 編
 ISBN 978-4-86110-570-8 ¥2500

資料を見て考えるホロコーストの歴史

ヴァンゼー会議記念館 編著／山根徹也・清水雅大 訳
 ISBN 978-4-86110-461-9 ¥2000

韓国の財政と地方財政

鞠重編 (横浜市立大学教授)
 ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000

レリキオ―(宗教)の起源と変容

三上真司 (横浜市立大学教授)
 ISBN 978-4-86110-452-7 ¥3000

日中間戦争と中国文学者―郁達夫、柯靈、陸蠡をめぐって

鈴木正夫 (横浜市立大学名誉教授) 編
 ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3500

天狼俳句の英訳―誓子・敏雄・綾子

古平隆 (横浜市立大学名誉教授)
 ISBN 978-4-86110-384-1 ¥3000

過去の再演を越えて―精神的分析的ロール・プレイング

川崎政道 (横浜市立大学名誉教授) 編
 ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000

読んで愉しむイギリス文学史入門

白井義昭 (横浜市立大学名誉教授) 立正大学教授
 ISBN 978-4-86110-372-8 四刷 ¥1500

東洋英和女学院大学 社会科学研究叢書

国際協力の行方

経済・開発・オルタナティブ
 吉川健治 (東洋英和女学院大学教授) 編
 経済成長を前提とした発展の限界が露呈しつつある今日、今後必要とされる社会開発やビジネスを論じることで、実現可能な国際協力のオルタナティブを考察する。
 四六判並製・一四四頁 定価(2500円+税)
 ISBN 978-4-86110-646-0



グローバル・トラウマに対する短期心理療法

岡本浩一・長谷川明弘 編
 ISBN 978-4-86110-639-2 ¥2500

世界のメディア―グローバル時代における多様性

小寺敦之 (東洋英和女学院大学教授) 編
 ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500

アジアの国際関係―移行期の地域秩序

福田保 (東洋英和女学院大学教授) 編
 ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500

新時代のやさしいトラウマ治療

岡本浩一・角藤比呂志 編
 ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500

EU統合を読む―現代ヨーロッパを理解するための基礎

小久保康之 編
 ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500

ネット空間を変えるモバイル社会

東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究所 編
 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500

グローバル化とリソースとリスク社会

岡本浩一・パトリシア・スイツベル 編
 ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500

立教大学人文叢書

1 人文資料学の現在―

浦野聡他 編著
 ISBN 4-86110-063-1 ¥2200

2 文学の基礎レッスン

後藤和彦 編著
 ISBN 4-86110-087-9 ¥2200

3 肖像と個性

藤巻明他 編著
 ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200

4 人文資料学の現在II

菅谷憲典 編
 ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200

5 書簡を読む

桑瀬章二郎 編
 ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200

古代文字史料の中心性と周縁性

立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡 編著
 ISBN 4-86110-067-4 ¥3500

デジタル雑学事典

田所清克 (京都外国語大学名誉教授) 編
 ISBN 978-4-86110-496-1 ¥5000

ニューシラント学事典

ニューシラント学 編
 ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333

ダンテ神曲原典読解語源辞典〈地獄〉〈煉獄〉〈天国〉

福島治 編
 ISBN 4-921146-77-2 / 4-921146-78-0 / 4-921146-79-9 各巻 ¥46000

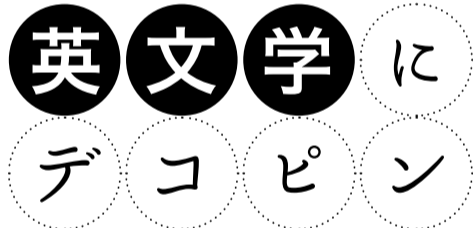
現代日本語モンゴル語辞典

橋本勝 (大阪大学名誉教授)／E・プレブジヤフ 編
 ISBN 4-921146-33-0 ¥15000

日本の英語辞書と編纂者

愛知大学文学部 編
 早川勇 (愛知大学名誉教授) 編著
 ISBN 4-86110-064-X ¥6600

阿部公彦



12 J・M・クツェー『恥辱』の回復

英語圏ではいつの頃からか「キャンパス・ノヴェル」と呼ばれる作品が目につくようになった。大学のキャンパスを舞台に、大学教員や学生が登場人物となって活躍する。デイヴィッド・ロッジの『交換教授』(高橋進訳、白水社)など軽快でコミカルなものが日本でも読まれてきた。J・M・クツェーの『恥辱』も出だしはまさにそうした「キャンパス・ノヴェル」の体裁だ。主人公はやや「勘違い」気味の大学教授デイヴィッド・ルーリー。この男がいい年をして放埒な生活を送り、挙げ句に学生にセクハラをして痛い目に遭う。読者はそれを笑う、あるいは呆れる、という流れだ。

冒頭のコミック臭はすっかり変質、相応な苦みが覆う。でも、まさにここで、私たちはこの主人公がなかなかおもしろい奴じゃないかとも思い始める。なんだ、あんたもずいぶん主人公らしくなったじゃないか！ と。

そこで大事なのが、デイヴィッドと他の人物たちとの関係だ。誘惑しようとした学生のメラニー、娘のルーシー、メラニーの父アイザック、ペブといった人物たちとかわるごとに、デイヴィッドは自分の立ち位置に揺らぎを感じる。自惚れ屋のようであり、対面した相手から影響を受けやすい。二人称的なのだ。ひょっとすると、いつも誰かにお説教されがっているのかもしれない。

もちろん、お説教ですべてが解決するわけではないし、小説も決して麗しい終わり方でもない。しかし、無限の底に落ちるかと思えた彼の人生にうつつら「回復」が感じ取れると思わせるプロセスは実に巧みだ。「むつつり作家」の面目躍如である。(英文学者)

言語

おしゃべりなポライトネス

会話の中の共話・話題交換・笑い・メタファー
 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授)
 なぜ、おかしくない時でも会話に笑いを添えるのか？ 性別や言語文化圏が異なる人物どうしの会話におけるポライトネス(丁寧な振る舞い)を豊富な具体例をもとに分析。対人関係を円滑にするための言語的配慮の諸相を探る。
 四六判上製・三八六頁 定価(3500円+税)
 ISBN 978-4-86110-642-2



小学校英語への専門的アプローチとはの世界を拓く 綾部保志 (立教池袋中学校・高等学校 教諭) 編
 ISBN 978-4-86110-647-7 ¥2000

ウェールズ語の歴史

ジャネット・デイヴィス 著／小池剛史 (大東文化大学准教授) 訳
 ISBN 978-4-86110-608-8 ¥2700

視覚スキーマを用いた意味拡張機つけの分析

栗田奈美 (拓殖大学特任講師) 編
 ISBN 978-4-86110-564-7 ¥5500

日本語のポライトネス再考―発話行為・発話媒介行為・相互行為

笹川洋子 (神戸親和女子大学教授) 編
 ISBN 978-4-86110-502-9 ¥3500

英語と開発―グローバル化時代の言語政策と教育

F・サージエント、E・J・アーリング 編／松原好次監訳
 ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語学―現代英語をより深く知るために

菊池清明 (元立教大学教授) 編
 ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

英法法は役に立ちました！―英語をもっと深く知りたい人のために

古田直肇 (東洋大学准教授) 編
 ISBN 978-4-86110-434-3 ¥2000

神奈川県の方言アクセント

小田原から横須賀まで



第二言語学習と個別性 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ 編
 ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

教育

人生の意味を問う教室―知性的な信仰あるいは不信仰のための教育

ネル・ノディングズ 著／井藤元 (東京理科大学准教授)・小本曾由佳 (同志社大学研究員) 訳
あらゆる教科に実存的問いを。現代アメリカを代表する教育哲学者による批判的思考のレッスン。 ISBN 978-4-86110-668-2 ¥3000

「エビデンスに基づく教育」の闇を探る―教育学における規範と事実をめぐる
杉田浩崇 (広島大学准教授)・熊井将太 (山口大学講師) 編 エビデンスを教育に取り入れることの内実を多角的に検討。不確実さの含まれる教育という営みにおける判断のあり方を問う。 ISBN 978-4-86110-658-3 ¥3700

主権者教育論―学校カリキュラム・学力・教師渡部竜也 (東京学芸大学准教授) 自らを生かした社会に意見を提言できる市民としての主権者を育むために、公教育は何をすべきか。社会科学教育の課題を具に検討し、民主社会で培うべき各々の見解の多元性の意義と展望を示す。 ISBN 978-4-86110-648-4 ¥4500

移動する女性たち―海外の日本語教育と国際ホランティアの周辺 平畑奈美 (東洋大学教授)海を渡る「日本語教師」をめぐる幻想と実像―八割が女性という日本語教師を取り巻く環境と課題を、アンケート調査および四人の女性のライフヒストリーをもとに明らかにする。 ISBN 978-4-86110-638-5 ¥3241

共同体による自己形成―教育と政治のフラグマティズム
生澤繁樹 (名古屋大学准教授)「共同体」に定位した社会・政治哲学の語り口が教育の領域においてどのように論じられてきたかを論究する。 ISBN 978-4-86110-641-5 ¥5500

The Developmental Process of Japanese Elementary School Teachers Associated with Teaching English While Engaged in Lesson Study 上原明子 (都留文科大学准教授) 小学校英語教育での教師と教職課程学生の指導の現状を分析し、各々の経験を活かす取り組み方を提案。本文英語。 ISBN 978-4-86110-634-7 ¥5900

教育と他者―非対称性の倫理に向けて
橋本憲幸 (山梨県立大学准教授) 教育という行為は「い」まで正当化しうるのか? 「開発途上国」に対する国際教育開発の正当性の根拠を問い、他者への関与における倫理に求める。 ISBN 978-4-86110-614-9 ¥4000

アメリカ人の生活と学校カリキュラム―生活に根差した学校に向けての次のステップラック著
渡部竜也 訳 ISBN 978-4-86110-602-6 ¥6000

大学英語教育の質的転換―「学び」場から「使う」場へ 佐藤響子・Carl McGary・加藤千博 編 ISBN 978-4-86110-618-7 ¥2300

歴史的思考―その不自然な行為
サム・ワインバーク 著／渡部竜也 監訳 ISBN 978-4-86110-555-5 二刷 ¥5100

真正の学び／学力―質の高い知をめぐる学校再建 フレッド・M・ニーマン 著／渡部竜也・堀田論 訳 ISBN 978-4-86110-525-8 ¥6200

世界初市民性教育の国家規模カリキュラム
渡部竜也 編 訳 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

コモンセクトのための歴史教育―社会文化的アプローチ レヴスタイク、バートン 著／渡部竜也 他 訳 ISBN 978-4-86110-445-9 二刷 ¥6000

教師のゲートキーピング
ステイブ・J・ソーントン 著／渡部竜也 他 訳 ISBN 978-4-86110-328-5 二刷 ¥2857

言葉への道―障害の重い人たちの事例研究集
遠藤司 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-573-9 ¥2800

居場所―生の回復と充足のトポス
萩原建次郎 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-566-1 ¥2315

教育方法改革の理論
助川晃洋 (国士舘大学教授) ISBN 978-4-86110-578-4 ¥2000

子どもの〈内面〉とは何か―言語ゲームから見た他者理解とコミュニケーション
杉田浩崇 (広島大学准教授) ISBN 978-4-86110-556-2 ¥3700

絵本から「子ども福祉」を考える
青木文美 (愛知淑徳大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

現代の学校を読み解く―学校の現在地と教育の未来 末松裕基 (東京学芸大学准教授) 編 著 ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300

留学生の見た漢字の世界―漢字学習への創造的アプローチ 林と子・関麻由美・齋藤伸子 編 著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

人生の調律師たち―動的ドラマトゥルギーの展開 藤川信夫 (大阪大学教授) 編 著 ISBN 978-4-86110-540-1 ¥4500

教育実践の昭和
横須賀薫 (元十文字学園女子大学学長) ISBN 978-4-86110-512-8 ¥2000

日本統治下台湾の教育認識―書房・公学校を中心に 呉宏明 (京都精華大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-505-0 ¥3500

キリスト教人格教育論―個人の尊厳を見つめて 吉岡良昌 (元東洋英和女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-417-6 ¥2300

いのちを育む教育学 吉岡良昌 (元東洋英和女学院大学教授)・大川洋 (国際基督教大学上級准教授) ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

アメリカ教育福祉社会史序説―ビティンク・テイチャーとその時代 倉石一郎 (京都大学教員) ISBN 978-4-86110-416-9 二刷 ¥3000

物語が始まるとき―共創教育の現場から
青木幸子 (昭和女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

ワークシートで学ぶ 生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・服部伴文・村木見 ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

日中教育学対話―川芳凱声・山崎高哉 共編 ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200 / ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 / ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

私はどのような教育実践をめざすのか―言語教育とAIエンティティ 細川英雄・鄭京姫 編 ISBN 978-4-86110-379-7 ¥2800

子どもの心とく授業―三重県桑名市立藤が丘小学校における六年 伊藤新司 編 著 ISBN 978-4-86110-326-1 ¥2381

海峡を越えて―京畿高等女学校の思い出
太田孝子 (岐阜大学教授) ISBN 978-4-86110-157-1 ¥2200

戦前感化・教護実践史
佐々木光郎・藤原正範 ISBN 4-921146-18-7 ¥4800

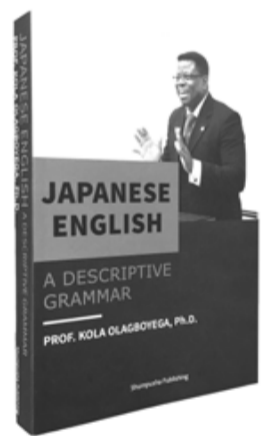
昭和戦前期の少年教護実践史 (上・下)
佐々木光郎 上 ISBN 978-4-86110-330-8 下 ISBN 978-4-86110-331-5 各巻 ¥3500

新版 生涯学習と地域社会教育 木本誠 (湊川短期大学学長)・松田武雄 (中村学園大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-234-9 ¥2476

学びを開くNIE―新聞を使ってどう教えるか 影山清四郎 (横浜国立大学名誉教授) 編 著 ISBN 4-86110-080-1 ¥2381

幼児キャンプ―雪の体験
山梨幼児野外教育研究会 監修 ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

坂本薫 (國學院大学兼任講師)「北」「居るじゃん」……これらはどのように発音されるか? 県内各地のアクセントの実態を、豊富な語例をもとに分類し検討。共通語化が進み首都圏方言として包括されるなか、各地域に特有の様相および変遷を捉え直す。四六判上製・二五〇頁 定価(3700円+税) ISBN 978-4-86110-670-5



Japanese English
A Descriptive Grammar
Kolawole Waziri Olagboye (都留文科大学教授)
日本人が用いる英語の文法的な特徴とは? 一致の相違や品詞の構造を分析し、日本における「標準英語(Standard English)」としての多様性を展望を示す。本文英語。As判並製・三四四頁 定価(6000円+税) ISBN 978-4-86110-680-4

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis 鈴木憲夫 (元神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-114-4 ¥7619

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II 鈴木憲夫 (元神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-300-1 ¥6667

シモンと「国語」辞典の誕生―十八世紀巨人の名言・金言 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-399-5 ¥2500

啓蒙思想下のシモン辞書―知の集成を指して 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

英語教育の精神と実践―「コミュニケーション」から英米文学まで 岡田善明 (日本大学講師) ISBN 978-4-86110-361-2 ¥1800

デイケアの心理学
浮田徹嗣 (横浜市立大学准教授) ISBN 978-4-86110-306-3 ¥3000

「俗語」から「国家語」へ―スペイン黄金世紀の言語思想史 岡本信照 (京都外国語大学教授) ISBN 978-4-86110-291-2 ¥3333

英語のルーツ
唐澤一友 (立教大学教授) ISBN 978-4-86110-283-7 ¥2000

フェリス相互作用理論―日本語学習プロセスにおける相互作用からフェリスワークをどう考える
横溝環 ISBN 978-4-86110-286-8 ¥4667

Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition 伊庭縁 (甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-235-6 ¥4600

英単語のいぢ
早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-217-2 1800

はじめの論文―語用論的な視点で調査・研究する 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-349-0 三刷 ¥1800

「プラグマティクス・ワーク」の身まわり
田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-073-9 四刷 ¥1800

環境心理学―環境デザインへのバースペクティブ 植究 (実践女子大学教授) ISBN 4-86110-010-0 二版二刷 ¥2286

の階級を包摂する「理念としての公衆衛生」として定着することになった。そうした公衆衛生がいまや崩壊の危機に立たされている。

一つには、イタリアやスペイン、そして何よりもアメリカの医療崩壊の裡にみられるように、新自由主義的な、医療資源の効率化と削減にもとづく医療政策の矛盾が火を噴くなかで、「理念としての公衆衛生」の足元が掘り崩されている。この公衆衛生の瓦解はさらに、上述の医療崩壊と同時に進んでいる社会の亀裂とともにはや避けがたいものとなっている。たとえば、イタリアでは医療崩壊の現場を「戦場」としてとらえ、「戦争に役立たない」あるいは「足かせになる」とされる高齢者や社会的弱者を切り捨てる動きが強まっている。逆にアメリカや日本では、勝手きままにふるまう若者たちを高齢者が「スーパー・スプレッダー」として批判する動きが立ちあらわれている。さらにヨーロッパやアメリカではアジア系住民を、また日本では中国人や中国系住民を感染の「元凶」として攻撃するヘイトの動きが顕在化している。しかもこうした差別や排除の動きは、ネットを通して拡散している。だから、一部ではパンデミックを差別的な「インフォデミック」(流言蜚語の拡散)と重ね合わせる捉え方も出てきている。いずれにせよ、いまや社会が大きく傷つけられ、形式的なものであれ、理念としての公衆衛生の基底にある共生の枠組みが大きくゆらいでいることはたしかである。

(社会学者)



co-presence
の時代へ
吉原直樹

3 / パンデミックの下ですすむ社会的亀裂

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミック (世界的流行) が世界を恐怖に陥れている。それとともに、公衆衛生の根幹が脆くも崩れ去ろうとしている。考えてみれば、公衆衛生は資本主義の台頭とともに蔓延することになった赤痢、疫痢、コレラなどの伝染病にたいする防疫施策の進展とともに立ちあらわれたものである。それは労働力の再生産と保全に加えて、権力中枢を伝染病から守るといった階級的利害にもとづいて出発したといわれている。けれども、資本主義の展開とともに公衆衛生は労働力保全という社会政策の枠を越えて広がり、すべ

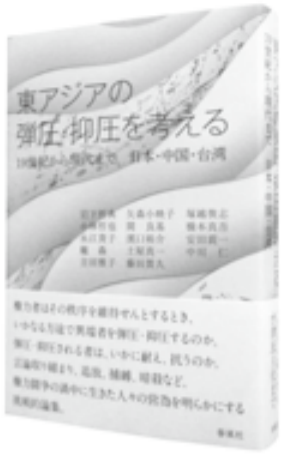
社会・歴史



合法性と正当性

ワイマール期におけるカール・シュミット、ハンス・ケルゼンおよびヘルマン・ヘラー、デイウィッド・ダイゼンハウス著／池端忠司（神奈川県立大学准教授）訳

合法性は国家をどのように正当化できるのか。ワイマール憲法下における三者の法理論を評述。ロールズやハーバースマスらとも比較し、三者の意義と限界を指摘する。
A5判並製・四二四頁 定価（4100円＋税）
ISBN 978-4-86110-686-6



東アジアの弾圧・抑圧を考える

19世紀から現代まで 日本・中国・台湾
若下哲典・矢森小映子・塚越俊志・小林哲也・関良基・橋本真吾・永江貴子・濱口裕介・安田麗一・龐森・土屋真一・中川仁・吉田雅子・藤田賢久

権力者はその秩序を維持せんとするとき、いかなる方途で異端者を弾圧・抑圧するのか。弾圧・抑圧されるものは、いかに耐え、抗うのか。言論取り締まり、追放、捕縛、暗殺など、権力闘争の渦中に生きた人々の営為を明らかにする挑戦的論集。
四六判並製・五二二頁 定価（4000円＋税）
ISBN 978-4-86110-669-9



開発と文化における民衆参加

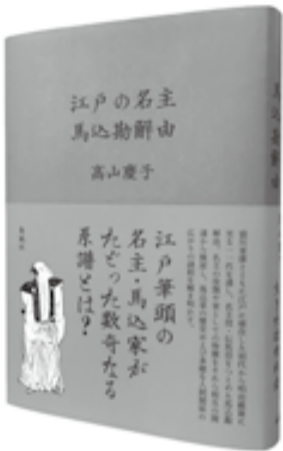
タンザニアの内発的発展の条件
阪本公美子（宇都宮大学准教授）

タンザニアの「貧困」地域であるリンディ州におけるフィールド調査によって開発と文化の関係を多面的に分析。地元民衆の文化、開発過程参加が重視されない外発的な開発事業は失敗に終わり、民衆の主体性、主動性、内発性を重視した開発こそが社会開発の要件である。
A5判並製・五二〇頁 定価（4500円＋税）
ISBN 978-4-86110-676-7

江戸の名主 馬込勘解由

高山慶子（宇都宮大学准教授）

徳川家康とともに江戸に移住した初代から明治維新に至る十一代を通じ、名主役・伝馬役をつとめた馬込勘解由。名主の役割や家としての特徴をそれら相互の関連から検証し、馬込家の歴史および多様な人間関係の広がり、諸相を解き明かす。
A5判上製・三四四頁 定価（4100円＋税）
ISBN 978-4-86110-666-8



ポストモダンの処方箋

25 この危機がもたらすもの 白井聡

ポスト・モダンとは、つまり「ポスト・ヒューマンズム」であるとする議論が最近現れている。ただし、こうした議論は今に始まったものではない。ミシェル・フーコーが「1968年の書」とも言われる『言葉と物』の末尾に、いささか神秘的な筆致で書きつけたのは、近代が発明した「人間なるもの」は歴史上の発明物である以上、やがて消え去る運命にある、ということだった。あるいは、レヴィ=ストロースが「世界は人間なしに始まったし、人間なしに終わるだろう」という名高い言葉で『言葉と物』に11年先立っていた。

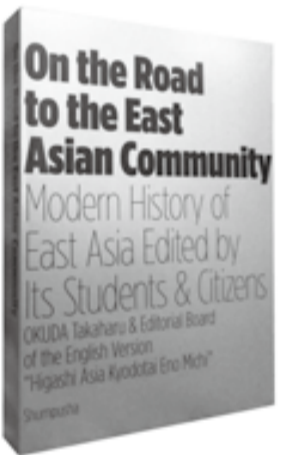
これらの思想が表明されてから半世紀以上を過ぎて、私たちは文字通りの、あるいは物理的なポスト・ヒューマン的状況に立ち会っている。それをもたらしたのは、言うまでもなく、新型コロナウイルスによる危機である。

多くの識者が指摘するように、今次の危機は経済成長に伴う濫開発が根源的な理由である。とりわけ開発途上国の経済発展に伴って手つかずの自然に開発の波が及ぶことにより、新型コロナウイルスの発生

が起こる。したがって、今回の危機は今後さらに起こるであろうより深刻な危機の前触れにすぎない可能性も否定できない。そして、世界中で打ち続く都市封鎖により、経済秩序はどうなるのか。ひとこと言えば、かつてペストがヨーロッパで中世を終わらせたように、新型コロナウイルスの危機は近代を、資本主義の時代を終わらせるかもしれない。

犠牲者を数えるカウンターは止まるところを知らず、世界中を震撼させている。しかし、それは表層にすぎない。ある環境経済学者が言うには、コロナ危機による経済活動の停止によって大気汚染は大幅に改善されている。彼は、大気汚染による健康被害・犠牲者がこの改善によって減少する数と新型コロナウイルスによる犠牲者のどちらが多いか、と疑問を投げ掛ける。温室効果ガスについても同じことが言えるだろう。してみれば、この危機は自然環境の健全化・正常化をもたらす過程だとも言える。われわれがいま直面している不安と苦悩は、新しい文明のための産みの苦しみとならなければならない。

（政治学者）



On the Road to the East Asian Community

Modern History of East Asia Edited by Its Students & Citizens
OKUDA Takaharu & Editorial Board of the English Version "Higashi Asia Kyodotai Eno Michi" 編

日中韓共通の近現代歴史教科書。国民国家の視点を脱し、東アジア市民としての歴史記述を試みた共同研究活動の成果。本文英語。
A5判並製・五二二頁 定価（6000円＋税）
ISBN 978-4-86110-655-2

反逆者たちのアメリカ文化史—未来への思考

堀真理子（青山学院大学教授）

ISBN 978-4-86110-659-0 ¥2700

統計は力なり—エルンスト・エンゲルの希望の学

太田和宏（元北海道大学准教授）

ISBN 978-4-86110-656-9 ¥3700

ムガル建築の魅力—皇帝たちが築いた地上の楽園

宮原辰夫（文政大学准教授）

ISBN 978-4-86110-660-6 ¥3100

寛容な社会—アメリカ合衆国における言論の自由と過激派の言論

リー・C・ポリンジャー 著／池端忠司訳 ISBN 978-4-86110-593-7 ¥3900

食から描く—近現代の社会変容とアイディア

井坂理穂（東京大学准教授）・山根聡（大阪大学准教授）編 ISBN 978-4-86110-633-0 1刷 ¥3700

ニエーランドTODAY

ニエーランド大学編 ISBN 978-4-86110-644-6 ¥2000

基礎的自治体と町内会自治会—行政協働力制

度」の歴史・現状・行方 日高昭夫（山梨学院大学特任教授） ISBN 978-4-86110-611-8 ¥4200

難民支援—ドイツメディアが伝えたこと

原好次（元電気通信大学准教授）・内藤裕子（翻訳者） ISBN 978-4-86110-607-1 ¥2700

政治・経済

異色の経済学者 フリードリッヒ・リスト

諸田實（神奈川県立大学准教授）

ISBN 978-4-86110-576-0 ¥2700

国際コミュニケーションの政治学

本多周爾（武蔵野学院大学准教授）

ISBN 978-4-86110-524-4 ¥3000

医療制度改革の比較政治

石垣千秋（山梨学院大学准教授）

ISBN 978-4-86110-534-0 ¥3400

日中比較産業史—取引慣行と制度に見る戦前

期日中経済の特質 四方田雅史（静岡文化芸術大学准教授）

ISBN 978-4-86110-486-2 ¥3700

アメリカの対日通貨政策の形成—1971—

2003年の日米通貨交渉を事例として

増水真 ISBN 978-4-86110-359-9 ¥2700

中国興業銀行の崩壊と再建—第二次大戦後

フ랑스の政治・経済・金融的対抗 篠永宣孝（東京文化大学准教授） ISBN 978-4-86110-565-4 ¥8640

社会学批判と現代—早瀬利雄の人と学問

- 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-561-6 ¥2900
- 海と陸の織りなす世界史—港市と内陸社会 弘末雅士 (元立教大学教授、東洋文庫研究員) 編 ISBN 978-4-86110-592-0 ¥2000
- エネルギーと地方財政の社会学—旧産炭地と原子力関連自治体の分析 湯浅陽一 (関東学院大学教授) ISBN 978-4-86110-586-9 ¥2700
- スイスの謎—経済的空間的秩序 加藤幸治 (国士館大学教授) ISBN 978-4-86110-585-2 ¥2700
- カヌードスの乱—19世紀ブラジルにおける宗教共同体 住江淳司 (名桜大学教授) ISBN 978-4-86110-571-5 ¥2200
- 東アジアの秩序を考える—歴史・経済・言語 岩下哲典 (東洋大学教授) 他 ISBN 978-4-86110-574-6 ¥2700
- 英国聖公会宣教師協会の日本伝道と函館アイヌ学校 田辺陽子 編著／西口忠著／F・ピリングズリー 監修 ISBN 978-4-86110-580-7 ¥2600
- 当事者が支援する—薬物依存からの回復 タルクの日々バート 南保輔・中村英代・相良翔 編 ISBN 978-4-86110-584-5 ¥2000
- 戦後小樽の軌跡—地方都市の衰退と再生 内藤辰美・佐久間美穂 (山村学園女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-526-5 ¥3800
- 北の商都「小樽」の近代—ある都市の伝記 内藤辰美 (山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900
- 都市の遺産とまちづくり—アジア大都市の歴史保全 鈴木伸治 (横浜国立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-560-9 ¥2200
- 新版 学問の暴力—アイヌ墓地はなぜあはれたか 植木哲也 (吉小牧駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-531-9 ¥2400
- 〈フォーク〉からの転回—文化批判と領域史 小長谷英代 (早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-535-7 ¥3300
- ミットフォードと釈尊—イギリス人外交官の見た理想郷日本 A・B・ミットフォード 著／大西俊男 訳 ISBN 978-4-86110-524-1 ¥3200
- 都市近隣組織の発展過程—コミュニティカバナンスの日米比較論 大内田鶴子 (江戸川大学教授) ISBN 978-4-86110-527-2 ¥5000
- 東亜連盟運動と石原莞爾 内村琢也 (研究者) ISBN 978-4-86110-522-7 ¥5000

素描・杉原千敏

- 小谷野裕子 (エッセイスト) ISBN 978-4-86110-528-9 二刷 ¥1800
- 天馬山—北朝鮮からの引揚げ者の語り 浅井重紀子 (桜美林大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-519-7 ¥2200
- 「幻の東京オリンピック」の夢にかけた男—日本近代スポーツの父岸清一物語 古城庸夫 (江戸川大学准教授) ISBN 978-4-86110-484-8 ¥2000
- 歴史教科書とナショナリズム—日本とドイツ 原口健治 (青山学院大学教授) ISBN 978-4-86110-506-7 ¥2700
- 宝は田から—しあわせの農村民俗誌 山形県米沢 佐野賢治 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-507-4 ¥3500
- 先生、NPOって儲かりますか?—若者たちが地元で賢く生きる方法 渡辺豊博 (元都留文科大学教授) ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389
- 今、田村明を讀む—田村明著作選集 鈴木伸治 (横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-508-1 二刷 ¥2000
- ケニアへかけた虹の橋—30年の国際ボランティア活動 NPO法人「少年ケニアの友」編 ISBN 978-4-86110-485-5 ¥1833
- 米国の沖縄占領と情報政策—軍事主義の矛盾とカモフラージュ 吉本秀子 (山口県立大学教授) ISBN 978-4-86110-451-0 ¥6500
- ホストセリングを知っていますか?—日本の子ども向けテレビCMの実態 山下玲子、藤井達也 ISBN 978-4-86110-435-0 ¥3000
- 変容するテレコミュニケーションとキャスターの役割 深澤弘樹 (駒澤大学准教授) ISBN 978-4-86110-432-9 ¥3400
- 婚姻連帯論と社会学—レヴィニストロース、デュルケムをめぐって 門口充徳 (成蹊大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900
- ヘリーと異船祭—日米文化外交史 佐伯千鶴 (立命館大学教授) ISBN 978-4-86110-425-1 ¥2200
- 雛の誕生—雛節供に込められた「対の豊穡」 皆川美恵子 (十文字学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3800
- スイスの歴史ガイド グレゴワール・ナッペイ 著／藤野成爾 訳 ISBN 978-4-86110-413-8 ¥1800
- 地域と越境—「共生」の社会経済史 内田日出海・谷澤毅・松村岳志 編 ISBN 978-4-86110-407-7 ¥3500

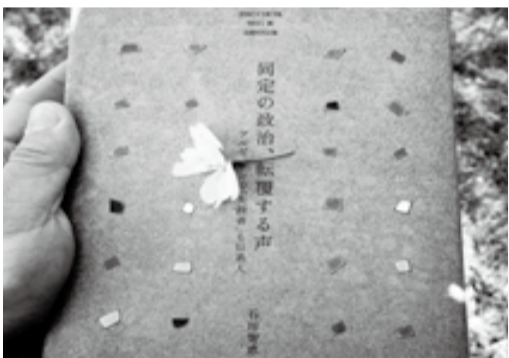
不思議フランス 魅惑の謎

- 藤野敦子 (京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-401-5 二刷 ¥1800
- 保守のシムト 中島岳志 (東京工業大学教授) ISBN 978-4-86110-227-1 ¥1800
- 変容する冷戦後の世界—ヨーロッパのリベラル・デモクラシー 永松雄彦・萬田悦生 編 ISBN 978-4-86110-224-0 ¥2381
- 空間のエスノグラフィ—文化を横断する 川床靖子 (大東文化大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-367-4 ¥2700
- 日系アメリカ人強制収容とジャーナリズム—リベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦 水野剛也 ISBN 4-86110-038-0 ¥4600
- 1920年代の日本と国際関係—混沌を越えて「新しい秩序」へ 杉田米行 (大阪大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-262-2 ¥2500
- ネットワーク社会と空間のポリテイクス—都市・モダニティ・グローバル化 大澤善信 ISBN 978-4-86110-202-8 ¥2800
- ブラジルの都市問題—貧困と格差を越えて 住田育法 (京都外国語大学教授) 監修 ISBN 978-4-86110-173-1 ¥3619
- フランス革命を旅したイギリス人—リグビー博士の書簡より E.リグビー 著／川分圭子 訳 ISBN 978-4-86110-171-7 ¥2381
- イングランドの地名—起源と歴史を訪ねて K・キヤメロン 著／吉見昭徳 (明治学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-290-5 ¥4286

表象のウェネツィア—詩と美と悪魔

- 鳥越輝昭 (元神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-329-2 ¥2800
- 旅する対話—ディアスポラ・戦争・再生 姜信子 (作家)・ザラ・イマーエワ (映像作家) ISBN 978-4-86110-350-6 ¥1800
- グローバルゼーション、市民権、都市—ヘクシスの社会学 岩永真治 (明治学院大学教授) ISBN 978-4-86110-140-3 二刷 ¥3333
- ヒトから人へ—「人前」への民俗学 佐野賢治 (神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-281-3 ¥2381
- 物権法概説 小泉健 (一橋大学学長) ISBN 978-4-86110-221-9 ¥2800
- 僕の解放前後—一九四〇—一九四九 柳宗麟 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校閲 ISBN 978-4-86110-164-9 ¥2800
- かの冬、そして秋—僕の朝鮮戦争 柳宗麟 著／白燦 訳／太田孝子 日本語校閲 ISBN 978-4-86110-256-1 ¥2800
- 保生大帝—台北大龍峒保安宮の世界 尾崎保子 (元昭和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-105-2 ¥2800
- 牡牛と信号—〈物語〉としてのネパール 山本真弓・序・佐々木幹郎 (詩人) ISBN 4-921146-60-8 ¥2200

『同定の政治、転覆する声 アルゼンチンの「失踪者」と日系人』 石田智恵



フランスの思想家ジャック・アタリは著書『ノイズ』の中で、「声」にまつわる権力性を論じる。雑音の排除や声の抑圧は多分に政治的な出来事であり、さまざまな「雑音」による権力への異議申し立てが必要であると彼は述べる。本書は、アルゼンチンの日系失踪者の家族たちの抑え込まれた声を聞きながら、その声を取り巻く、主に1970年代から現在までのアルゼンチン社会の有り様を分析し、権力性を攪乱する声の可能性を探る。

日系失踪者という存在とその家族たちの声は、国籍という同一化のカタゴリーを揺さぶるものであると本書で論じられる。「アルゼンチン人」にとっても「日本人」にとっても、これはたしかにスキャンダラスな報せであろう。また、声は「いかにして聞かれるか」がまずもって重要であると著者は述べるが、私にはさらに、どのようなスケールの身体で聞くかも重要だと思われる。「国民・国家」として聞く、「個人」として聞く、あるいは「家族」として。

私は、この本はなにより家族についての本であると受け止めた。本書はジュディス・パトラーの理論を参照しながら、公的な場と私的な場がまじりせめぎ合う場として、血縁関係といったものを超え出るような「家族」を描く。ここで私は母のことを思い出す。結婚を機に国籍が日本から韓国へと変わり、同じ国にしながら外国人というカテゴリーに同一化されることになった彼女のことを。本書を通じて、人々から聞いた声を学術的な手続きによって響かせながら既存の規範を問い直す、という人類学の試みの奥深さを改めて確かめられた。私はいま彼女の声をどのように聞くことができるだろうか。

静けさを伴った表紙は、道路に埋め込まれたタイル—失踪者たちを表わしている—をモチーフとしている。この本を読み終えた今、この色形さまざまなタイルから、私には声が聞こえる。その声の主は、失踪者たちか、その家族たちか、それとも著者か、あるいは。

(11頁に本の紹介)

◆韓智仁 (春風社編集部、東京大学大学院文化人類学コース修了)

人類学

同定の政治、転覆する声

アルゼンチンの「失踪者」と日系人 石田智恵 (早稲田大学准教授)

一九七〇年代、アルゼンチン軍事政権による弾圧が生み出した大量の「失踪者」の中には日本人移民の子どもたちがいた—死体なき「強制失踪」という国家テロリズムと、日常的な人種主義。両者を転覆しようとする日系失踪者とその親族たちの闘いを、文化人類学的視点から描く。A5判上製・三三六頁 定価(3600円+税) ISBN 978-4-86110-678-1



ボルネオ

森と人の関係誌

佐久間香子 (東北学院大学准教授)

ロングハウスに暮らす「森の民」。交易の時代から植民地支配を経て、出稼ぎ、先住民運動、観光業の隆盛まで—住民たちは周囲の勢力との関係のなかで、生き抜いてきた。フィールドワークと史料分析に基づいて描く、森と人の一〇〇年間。四六判上製・四六頁 定価(3900円+税) ISBN 978-4-86110-684-2

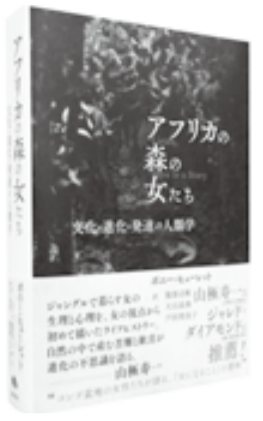


依存からひろがる人生機会

茶谷智之 (国立民族学博物館特任助教)

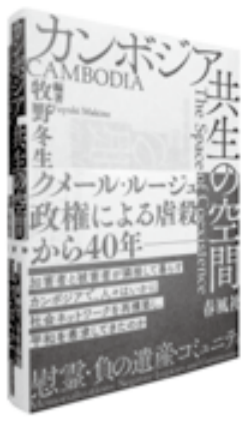
子どもによい教育を受けさせたい—子どもにはよい仕事に就いてほしい—大都市デリーの「豊かな」生活のそばで、スラムに暮らす人々が抱く切実な願い。日常的な試行錯誤が子どもたちの未来を少しずつひらく、新しい「民主化」のかたち。A5判上製・二九六頁 定価(3700円+税) ISBN 978-4-86110-677-4





アフリカの森の女たち

文化・進化・発達の人類学
ホニー・ヒューレット 著／服部志帆 訳
理大学准教授）・大石高典（東京外国語大学准
教授）・戸田美佳子（上智大学助教） 訳
少女時代、結婚、出産と子育て、喪失、そ
して老い——中央アフリカ共和国で隣り
合って暮らす農耕民ガンドウと狩猟採集
民アカの女性たちが語る「女になること」
の意味。女性たちの語りと文化・進化・発
達の理論から、人間の多様性と普遍的特性
が見えてくる。
四六判並装・四〇〇頁 定価（3100円＋税）
ISBN 978-4-86110-682-8



カンボジア 共生の空間

慰霊・負の遺産・コミュニティ
牧野冬生（早稲田大学特別センター員）・
島崎裕子（早稲田大学准教授） 著
加害者と被害者が隣接して暮らすカンボジ
アで、人々はいかに社会ネットワークを再
構築し、平和を希求してきたのか。「歴史」
「日常生活」「仏教実践」「空間」の四つの
カテゴリーから現在のカンボジアを描く。
写真集「子どもたちの眼」併録。
A5判並装・三八四頁 定価（3600円＋税）
ISBN 978-4-86110-661-3



21世紀のメキシコ革命

オアハカのストリートアーティスト
トがつむぐ物語歌
山越英嗣（早稲田大学助教）

ガスマスクの聖母、モヒカンの英雄サバ
タ……州政府への抗議運動に際して現れ
たストリートアートは、日本人画家・竹
田鎮三郎の影響を受けた先住民アデー
ストたちによるものだった。
グローバルな力関係のなかで絡み合う、
アートと政治、歴史意識、そしてアイデ
ンティティ。
A5判上製・三五頁 定価（3600円＋税）
ISBN 978-4-86110-675-0

宗教と開発の人類学—グローバル化するホス
ト世俗主義と開発言説 石森大知（神戸大学准
教授）・丹羽典生（国立民族学博物館准教授） 編
宗教団体や宗教者による開発への関与が顕在
化する現代、アジアとオセアニア各地の開発
の現場からその関係を問い直す。
ISBN 978-4-86110-651-4 ¥4000

グローバル都市を生きる人々—イラン人ディア
スポラの民族誌 榎原敦子（龍谷大学准教授）
ISBN 978-4-86110-599-9 ¥3700

まちづくりのエスノグラフィ—《つくば》を織
り合わせる人類学的実践 早川公（大阪国際大
学准教授） ISBN 978-4-86110-626-2 二刷 ¥3700

アフリカ漁民文化論—水域環境保全の視座
今井一郎（関西学院大学教授） 編
ISBN 978-4-86110-643-9 ¥3700

流れをよそおう—レバノンにおける相互行為
の人類学 池田昭光（東京外国語大学研究員）
ISBN 978-4-86110-587-6 ¥3500

都市の寺廟—シンガポールにおける神聖空間
の人類学 福浦厚子（滋賀大学教授）
ISBN 978-4-86110-599-9 ¥4000

文化遺産はたれのものか—トルコ・アナトリ
ア諸文明の遺物をめぐる所有と保護
田中英資 ISBN 978-4-86110-3548-7 ¥3700

建築人類学—読む・描く・造る
牧野冬生（駒沢女子大学特任准教授）
ISBN 978-4-86110-539-5 ¥4000

世界遺産の自然と暮らし
今井一郎（関西学院大学教授）
ISBN 4-921146-98-5 ¥1905

貧困と連帯の人類学—ブラジルの路上市場に
おける一方的贈与 奥田若菜（神戸外国語大学准教授）
ISBN 978-4-86110-532-6 ¥3700

The Agricultural Mongols
ホルジギン・ハレンサイン（滋賀県立大学准教授）
ISBN 978-4-86110-543-2 ¥6000

「共感」へのアプローチ—文化人類学の第一歩
渥美一弥（自治医科大学教授）
ISBN 978-4-86110-497-8 ¥2000

《紛争》の比較民族誌—グローバル化における
オセアニアの暴力・民族対立・政治的混乱
丹羽典生 編著 ISBN 978-4-86110-482-4 ¥3700

つなかりの民族誌—中国摩梭人の母系社会に
おける「共生」への模索 金繩初美（西南学院
大学教授） ISBN 978-4-86110-487-9 ¥5000

実践と感情—開発人類学の新展開
関根久雄（筑波大学教授） 編
ISBN 978-4-86110-469-5 ¥3500

現代アジアの宗教—社会主義を経た地域を讀
む 藤本透子（国立民族学博物館准教授） 編
ISBN 978-4-86110-453-4 ¥4200

途上と目的地—スペイン・サンティアゴ徒歩
巡礼路 旅の民族誌 土井清美（中央学院大学
講師） ISBN 978-4-86110-466-4 ¥4000

聖なる鉄琴—スロベニアの民族誌—バリ島トッ
ガナン・フクリンガン村の生活 信仰 音
楽 野澤暁子 ISBN 978-4-86110-440-4 ¥4700

シヨール・パフォーマンズが立ち上がる—現代ア
フリカの若者たちがむすぶ社会関係 大門碧
ISBN 978-4-86110-449-7 ¥4500

誰が差別をつくるのか—エチオピアに生きる
カファとマンジの關係 吉田早悠里（南山
大学准教授） ISBN 978-4-86110-402-2 ¥4900

ハワイ人とキリスト教—文化の混濁とアイデ
ンティティの再創造 井上昭洋（天理大学教授）
ISBN 978-4-86110-426-8 ¥2700

Social Development, Culture, and Participation
阪本公美子（宇都宮大学准教授）
ISBN 978-4-86110-174-8 ¥6476

Dominio provincial en el Imperio inca
渡部森哉（南山大学教授）
ISBN 978-4-86110-431-2 ¥4630

Estructura en los Andes Antiguos
渡部森哉（南山大学教授）
ISBN 978-4-86110-371-1 ¥5714

インカ帝国の成立—先スペイン期アンデスの
社会動態と構造 渡部森哉（南山大学教授）
ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619

増殖するシャーマン—モンゴル・フリアートの
シャーマニズムとエスニシティ 島村一平（国民民族
学博物館准教授） ISBN 978-4-86110-299-8 ¥7500

ダワー・タンザニア、反乱と治療をたずねる謎
の概念 岩崎明子（文化人類学者）
ISBN 978-4-86110-389-6 ¥3333

ナシヨナリズムと宗教—現代インドのビン
ドゥー・ナシヨナリズム運動 中島岳志（東京
工業大学教授） ISBN 4-86110-048-8 ¥3619

癒しと呪いの人類学（第二版）
板垣明美（横浜国立大学准教授）
ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800

ヴェトナム—変化する医療と儀礼
板垣明美（横浜国立大学准教授） 編
ISBN 978-4-86110-145-8 ¥2381

刊行予定（タイトルは仮）

- ▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼新版大
地の哲学 小野寺功▼仏教偏頗の研究 岩松浅夫
▼よく生きるための死生観 岩崎大▼カントの
人権思想 菅沢龍文▼デカルトによる修練の哲
学 津崎良典▼古代ギリシャの死生観 木原志乃▼
フヒテ伝 湯浅正彦他▼カントとシュンカ
タテス 福田喜三郎▼現代のヒンドゥー・ナ
シヨナリズム・イデオロギーの分析 近藤光博▼
環境を批評する 青田麻未▼Contemporary His
tories 佐竹晶子▼「土佐日記」の言説研究 佐藤
美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へII 中
井農▼アグリマスに魅せられて 大月和彦、深
田晋▼中央ヨーロッパ歴史と文学 桂元嗣▼
T. S. Eliot 山口敦子▼ジェー・オートン 矢島直
子▼制服のガールたち 杉村使乃▼バーナード・
シェー 森川寿他▼「線」で読むディケンズ 松本
靖彦▼スコットランド文学の深層 木村正俊編▼
幻想と怪奇の英文学IV 下柳昌哉、東雅夫編▼
異形のビュリタン 佐藤憲一▼英米人名小辞
典 吉見明徳訳▼中世英語文学研究の多様性と
その展望 菊池清明、岡本広毅編▼文学とアダブ
テーション2 小川公代、吉村和明編▼ジェー
ン・オースティンのグロテスクな笑い 岡本由恵
▼漱石論集 齊藤恵子▼三國英雄志伝 竹内真彦▼
長唄の世界へようこそII 細谷朋子▼伝承で読み
解く文化I 藤倉恵子▼コマシ狂想曲 堤小枝
子▼鎌倉山奇譚 ソーントン 不破直子▼ブルフ
ロックの世界 遠藤光▼モダンリズムの胃袋 大西
祥恵▼17〜18世紀のポランド演劇史 谷山和夫
訳▼ナチスと闘った劇場 葉柳和則他▼ダ・ヴィ
ンチ 田辺清▼益城 川崎仁美▼江戸の黙阿弥 理
忠美沙▼戦後日本における「コミュニティ・シア
ター」の形成と展開 須川渡▼暮らしの日本語（ス
ペイン語版）長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロ
ジカル英語入門 佐藤美弥子▼日本語学習者の読
解ストラテジー 田川麻衣▼グローバル社会とむ
きあう言語教師教育 南浦涼介他▼自律のため
の教育 大川洋▼雑刀と学校教育 井上アヤ子
▼教育のリーダーシップとハンナ・アーレント 末
松裕基、生澤繁樹、橋本憲幸訳▼健康自然塾 川
村協平▼「ノ」の人間観—世界観に基づいた
スピリチュアルケア 小西達也▼教育の理念・歴
史・思想 藤井基貴、中村美智太郎編著▼「ウェ
ルフェア・リングイステックス」とことばの教
育 佐藤慎司他編▼大学の理念 豊崎光衛訳▼ジ
ョー・デュイイ教育思想の再解釈 生澤繁樹▼哲学
教育論 生澤繁樹▼真正の評価 渡部電也他訳▼
多様化する子どもにむき合う教師達 瀨尾悠希子
▼吉田憲之助の教育思想 山田直之▼小学校英語
に児童文学を！ 吉田真理子他▼教育人間学の再
検討 宮嶋秀光▼アーベルの討議倫理学に関する
教育学的研究 丸橋静香▼19世紀フランスにおけ
る女子修道院寄宿学校 山内由賀▼共生社会と教
育 坂口真康（障害者）として社会に参加する
三谷雅純▼一九四〇年代素人演劇史論 小川史▼
学問としてのダンスの歴史的要害 木場裕紀▼現

出版をお考えの方へ

良書の企画をお待ちしています。
お気軽にお問い合わせください。

春風樓人

呉秀三・森田正馬・鈴木知準は、師匠と
弟子の關係にあり、たとえ「それは、
ソクラテス—プラトーン—アリストテレス
を連想させる。教育学者の林竹二の本
に「若く美しくなったソクラテス」があ
るが、すぐれた弟子というのは、師匠の
教えをそのまま踏襲するのではなく、師
匠の教えをさらに磨いて、そのエッセ
ンスを次の世代へと手渡す。師匠がほん
の教師であれば、弟子の言説を見、自
分のちがいを洞察し、諒とするはずだ。
そこに、師匠と弟子との間の静かであ
つても激しいドラマがある。弟子が師匠を
超えて伸びていくための原動力は、弟子
の実体験にある。すぐれた医療はまた、
深い人間教育でもあるのだろう。（三）